

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第488集

矢盛遺跡第6次発掘調査報告書

盛岡南新都市区画整理事業関連遺跡発掘調査

2005

岩手県盛岡市

(財)岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター

# 矢盛遺跡第 6 次発掘調査報告書

盛岡南新都市区画整理事業関連遺跡発掘調査



矢盛遺跡第5・6次調査区（真上西端から）

## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、盛岡南新都市開発計画に関連して平成16年度に発掘調査された矢盛遺跡第6次調査の成果をまとめたものです。今回の調査では、旧河道に沿って分布する縄文時代の陥し穴状遺構が多数検出されています。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました盛岡市都市整備部盛岡南整備課をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成17年12月

財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 合田 武

## 例 言

- 1 本報告書は、岩手県盛岡市飯岡新田第2地割17ほかに所在する、矢盛遺跡第6次発掘調査の結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の岩手県遺跡登録台帳の遺跡番号と調査略号は、以下の通りである。  
遺跡番号……LE26-0139  
遺跡略号……TYM-04-06
- 3 本遺跡の調査は、盛岡南新都市区画整理事業に伴う緊急発掘調査である。調査は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と盛岡市都市整備部盛岡南整備課の協議を経て、盛岡市都市整備部盛岡南整備課からの委託を受けた財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 調査期間・調査面積・調査担当者は以下の通りである。  
調査期間 平成16年4月12日～6月4日  
調査面積 3,288m<sup>2</sup>  
調査担当者 早坂 淳・北村忠昭
- 5 室内整理期間と整理担当者は以下の通りである。  
室内整理期間 平成16年11月16日～12月28日  
整理担当者 早坂 淳
- 6 本報告書の執筆・編集は早坂 淳が担当した。
- 7 基準点は、独立行政法人都市再生機構岩手都市開発事務所が設置した基準杭を許可を得て使用した。
- 8 野外調査・室内整理には、次の機関のご協力を頂いた。  
盛岡市教育委員会、盛岡市都市整備部盛岡南整備課、独立行政法人都市再生機構岩手都市開発事務所
- 9 本遺跡の調査成果は、概報が平成16年度調査分の岩手県埋蔵文化財発掘調査報告書にも収録されているが、本書の内容が優先するものである。
- 10 本遺跡の調査に関わる記録と遺物等の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

## 目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡の位置と環境	1
1	遺跡の位置	1
2	遺跡周辺の地形と地質	1
3	周辺の縄文遺跡	2
4	基本層序	7
III	野外調査と室内整理の方法	9
1	野外調査	9
(1)	グリッドの設定	9
(2)	粗掘りと遺構検出	9
(3)	遺構の命名	10
(4)	遺構の精査と実測	10
(5)	写真撮影	10
2	室内整理	10
(1)	作業手順	10
(2)	遺構の整理	10
(3)	遺物の整理	10
IV	検出された遺構と出土遺物	13
1	調査の概要	13
2	陥し穴状遺構	13
3	土坑	23
4	井戸跡	33
5	竪穴状遺構	33
6	溝跡	35
7	柱穴状小土坑	35
8	出土遺物	35
V	まとめと考察	42
1	遺構について	42
2	遺物について	42
3	矢盛遺跡の全体像について	42
	報告書抄録	65

## 図版目次

第1図	遺跡の位置及び周辺の遺跡分布	4	第13図	土坑(3)	29
第2図	周辺の地質分類と遺跡の位置	5	第14図	土坑(4)	31
第3図	遺跡周辺の地形と第6次調査区位置	6	第15図	土坑(5)、井戸跡	34
第4図	基本土層	7	第16図	溝跡、竪穴状遺構跡	36
第5図	旧河道断面図	8	第17図	柱穴状小土坑(1)	38
第6図	矢盛遺跡第6次調査遺構配置図	11~12	第18図	柱穴状小土坑(2)	39
第7図	陥し穴状遺構(1)	15	第19図	柱穴状小土坑(3)	40
第8図	陥し穴状遺構(2)	17	第20図	出土遺物	41
第9図	陥し穴状遺構(3)	19	第21図	第3次~第6次調査の遺構配置図	43
第10図	陥し穴状遺構(4)	21	第22図	矢盛遺跡及び近隣の遺跡の遺構分布	45~46
第11図	陥し穴状遺構(5)、土坑(1)	24			
第12図	土坑(2)	26			

## 写真図版目次

写真図版1	調査前風景	49	写真図版10	土坑(2)	58
写真図版2	調査区内土層	50	写真図版11	土坑(3)	59
写真図版3	旧河道・陥し穴状遺構	51	写真図版12	土坑(4)	60
写真図版4	陥し穴状遺構(1)	52	写真図版13	土坑(5)	61
写真図版5	陥し穴状遺構(2)	53	写真図版14	土坑(6)、竪穴状遺構	62
写真図版6	陥し穴状遺構(3)	54	写真図版15	溝跡、井戸跡、柱穴状小土坑(1)	63
写真図版7	陥し穴状遺構(4)	55	写真図版16	柱穴状小土坑(2)、出土遺物	64
写真図版8	陥し穴状遺構(5)	56			
写真図版9	土坑(1)	57			

## 表目次

第1表	周辺の遺跡一覧表	3	第3表	柱穴状小土坑観察表	37
第2表	起点および基準杭などの座標	9	第4表	掲載遺物一覧	41

## I 調査に至る経過

盛岡南新都市土地区画整理事業は、盛岡市が経済・文化などに対する各機能を兼ね備えた、北東北の拠点都市を目指して、現在の既成市街地のほかに南部地域を新市街地として開発し、両者が有機的に結びついた軸状都心を形成するために策定されたものである。

この事業は、平成2年9月に岩手県・盛岡市・旧都南村の三者が、地域振興整備公団に対して事業申請を行い、これを受けて公団は実施計画を作成した。平成3年12月に建設大臣と国土庁長官から事業の実施許可が下り、平成3年度から平成17年度までの15年間で事業予定期間とし、面積313haを対象とした土地区画整理事業が実施されることとなった。

矢盛遺跡第6次調査については、岩手県教育委員会と盛岡市都市整備部盛岡南整備課とが協議した結果、平成16年度の事業として確定した。これを受けて、平成16年4月1日に（財）岩手県文化振興事業団理事長と盛岡市長との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。矢盛遺跡第6次調査は、平成16年4月12日に開始され、6月4日をもって終了した。

（盛岡市都市整備部盛岡南整備課）

## II 遺跡の位置と環境

### 1 遺跡の位置

矢盛遺跡が位置する岩手県盛岡市は県のほぼ中央部に位置しており、近世以降、旧南部藩の城下町として栄えてきたとともに、現在でも行政・経済・文化施設の中核機能が集積しており、北東北の拠点都市として発展し続けている。

遺跡は、JR東北本線盛岡駅の南側約3kmの雫石川南側右岸に形成された河岸段丘面の縁付近に立地しており、標高は122m前後である。調査を行う以前の土地利用状況は、20年ほど前まで存在した旧都南村村営住宅の跡地と、その空閑地を利用したゲートボール場や荒地地となっていた。

### 2 遺跡周辺の地形と地質

盛岡市は、一級河川北上川及びその水系に属する西側奥羽山系からの雫石川、東側北上山系からの中津川が落ち合う沖積地に立地している。さらに、その合流地点からわずかに南には、やはり東側北上山系から築川が流れ込んでいる。流れの中心をなす北上川は、源流が県北部の岩手町御堂地内にあり、ここから南方向へ貫流しながら宮城県に入り、石巻市を経て太平洋へ流れ出る。源流から河口までの延長は243km、流域面積は10,720km<sup>2</sup>、支流数実に216河川という東北随一の大河川である。また、支流ながら北上川を凌ぐほど広い河川敷を有する雫石川は、古くからたびたび流れを変えたと考えられており、本遺跡周辺の広い地域に強く影響を与えてきた河川である。

過去には、これらの河川が肥沃な耕作地や水に恵まれた生活の場を提供し続けてきた一方で、度重なる氾濫で大きな水害を起こしてきたことは容易に推察される。当遺跡の北西約3kmには、西暦803年に当時東北最大級の城柵として志波城（現在の国指定史跡「志波城跡」）が造営されたが、記録によると、度重なる水害に会い、わずか9年の後には放棄され、南東約10km（地名「徳田」）に新たに

造営された「徳丹城」（現在の「徳丹城跡」）にその機能を移したとされる。

当遺跡周辺の地形図や航空写真を観察すると、耕地整理や都市化、区画整理が進んだ現在でも、河川が流路を幾度も変えてきた痕跡をいくつか見て取ることができる。事実、当遺跡周辺の各遺跡では、これまで数次にわたる発掘調査が継続されてきたが、その所々にうねるように旧河道の痕跡が認められているのは、そうした河川の変遷の名残と考えられ、発掘される竪穴住居跡等の遺構のなかにも土砂に埋没し破壊されるなどその影響を受けたものがあつたと考えられる。

なお、調査区域一帯の河岸段丘面は、一般に「都南段丘」（中川久夫ほか 1963）と呼ばれており、北上川・雫石川との比高も小さい「低位段丘」で、河川の氾濫や浸食の繰り返しのため、旧河道が網の目のように残るとともに、長年にわたる開拓の影響も受け、その段差や境界がより不明瞭となっている箇所が多く見られる。

### 3 周辺の縄文遺跡

平成14年4月の岩手県教育委員会のまとめでは、盛岡市内に500箇所以上の遺跡が登録されており、本遺跡の周辺でも、東は北上河畔から西は南昌山麓までの広い範囲に多くの遺跡が分布している。中でも、盛岡市内を代表する縄文遺跡としては、雫石川左岸（北側）の高位段丘上に所在する稲荷町遺跡・大新町遺跡・前九年遺跡などが有名である。一方、本遺跡が立地する雫石川右岸（南側）の縄文遺跡としては、近年までは、遙か西方、南昌山等の山裾に形成された扇状地或いは高位段丘に沿って主に南西部に集中していることが分かってきた。本遺跡のある雫石川近接の段丘面上には、一部に散見される陥し穴状遺構等を除き、目立った縄文遺跡は見られず、主に志波城跡をはじめとする奈良～平安時代を中心とした遺跡が数多く発掘されてきた。しかし、近年、盛岡南新都市開発計画（現「盛岡南新都市土地区画整理事業」）に後押しされる形で発掘調査が進み、縄文時代の遺構や遺物の出土が所々で見られるようになってきた。特に、従来より奈良～平安時代の集落跡と目されてきた本宮熊堂遺跡の北部（現、本宮熊堂A遺跡）において、その一帯に地床炉、石囲炉或いは土器埋設炉を有する竪穴住居跡など、縄文時代と目される集落跡が徐々に発掘され、その他の遺跡でも、奈良～平安時代の遺構と並んで縄文時代の陥し穴と考えられる遺構が少なからず認められるようになってきている。第1図に本遺跡及び周辺の遺跡の位置を示し、第2図に地質分類と遺跡位置の関係を示す。また、以下に、当センターが幾度か調査に携わり報告書を刊行するに至った遺跡を中心に、縄文時代に関する調査結果を略記する。

〈小幡遺跡〉 第2次調査で縄文時代の溝状の陥し穴状遺構が1基確認された。

〈大宮北遺跡〉 第4次調査で縄文時代の溝状の陥し穴状遺構が1基確認された。

〈鬼柳A遺跡〉 第4次調査で溝状の陥し穴状遺構が4基確認されている。また、第7次調査では、溝状のやや浅い土坑2基が確認されており、ハの字状に並ぶ様子はたびたび溝状の陥し穴状遺構群でも見られるものもあることから、やはり、1対の陥し穴状遺構と見ることができる。

〈本宮熊堂A・B遺跡〉 A・B両遺跡合わせて、過去に第26次までの発掘調査が行われている。A遺跡は、第6・7次調査で縄文晩期中葉末から後葉初頭の土器、石鏃、石匙、円盤状土製品、土器埋設炉をもつ円形竪穴住居、土器埋設遺構などが確認され、第17次調査では、やはり縄文晩期の住居跡や土器並びに石器類が発掘されている。一方、B遺跡でも、第4次調査で僅かながら縄文土器破片が出土し、第10次調査では、溝状の陥し穴状遺構1基と少量の縄文土器・石器が確認されている。

〈稲荷遺跡〉 第6次調査において、溝状の陥し穴状遺構が1基確認されている。

第1表 周辺の遺跡一覧表

No	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物
1	稲荷町	集落跡	縄文/古代～近世	住居跡
2	大新町	集落跡	縄文/古代	住居跡
3	熊九年	集落跡	縄文	住居跡
4	志波城跡	城跡	縄文/古代	土器片
5	林崎	散布地	縄文/古代	土器器、掘立柱建物跡
6	大宮北	散布地	縄文/古代	陥し穴状遺構/土器器、住居跡、土坑、溝
7	小畑	散布地	縄文/古代	陥し穴状遺構
8	鬼柳A	散布地	縄文/古代	陥し穴状遺構/土器器
9	稲荷	集落跡	縄文/古代	陥し穴状遺構/土器器、御器器住居跡
10	本宮新堂B	集落跡	縄文/古代	陥し穴状遺構
11	本宮新堂A	集落跡/散布地	縄文	縄文土器、陥し穴状遺構、土器器器遺構、石刀、石鏃
12	野古A	集落跡	縄文/古代	陥し穴状遺構、石鏃、縄文土器/住居跡、土器器、御器器
13	飯岡沢田	集落跡	縄文/古墳～中世	陥し穴状遺構、縄文土器、石鏃/土器器、御器器、環濠住居、墓塚
14	飯岡才川	集落跡/散布地	縄文/古代	陥し穴状遺構/住居跡、土器器、御器器、円形凹溝、溝、掘立柱建物跡
15	台太郎	集落跡/散布地	縄文/古代	住居跡、陥し穴状遺構/住居跡、土器器、御器器、溝
16	向中野館	城館跡	古代/中世	土器器、御器器、掘、住居跡
17	越行地	集落跡	縄文/古代	陥し穴状遺構/土器器、御器器、住居跡
18	唐仙北	集落跡	縄文/古代	縄文土器/土器器
19	矢盛	散布地	縄文/古代/近世	陥し穴状遺構、住居跡、井戸跡、墓塚、掘立柱建物跡
20	下久根I	散布地	縄文/古代	縄文土器/土器器
21	飯岡新堂I	集落跡	縄文/古代	縄文土器/土器器
22	飯岡新堂II	集落跡	縄文/古代	縄文土器/土器器、御器器、掘、住居跡
23	飯岡新堂III	集落跡	縄文/古代	縄文土器/土器器

〈野古A遺跡〉 第12次調査で溝状の陥し穴状遺構4基が確認され、若干の石鏃も出土している。

〈台太郎遺跡〉 試掘を含め過去に第55次までの発掘調査が行われている。第51次調査では、旧河道付近の低い区域から縄文晩期の大洞A式土器を伴う住居跡4棟及び石囲炉や床炉3基が検出されたほか、第18・19次調査では、奈良・平安時代の遺構埋土中から大洞C2～A式の土器片など縄文時代後晩期の土器片が少量ずつ出土している。また、第22次調査では、縄文時代の陥し穴が1基縄文土器や弥生土器が確認されており、さらに、第26・44次調査でも遺構埋土から縄文時代の土器片や石鏃・石器が出土している。

〈飯岡沢田遺跡〉 第3次調査で溝状の陥し穴状遺構が3基確認されたほか、遺構外から縄文時代前期末葉の土器・石鏃が出土している。

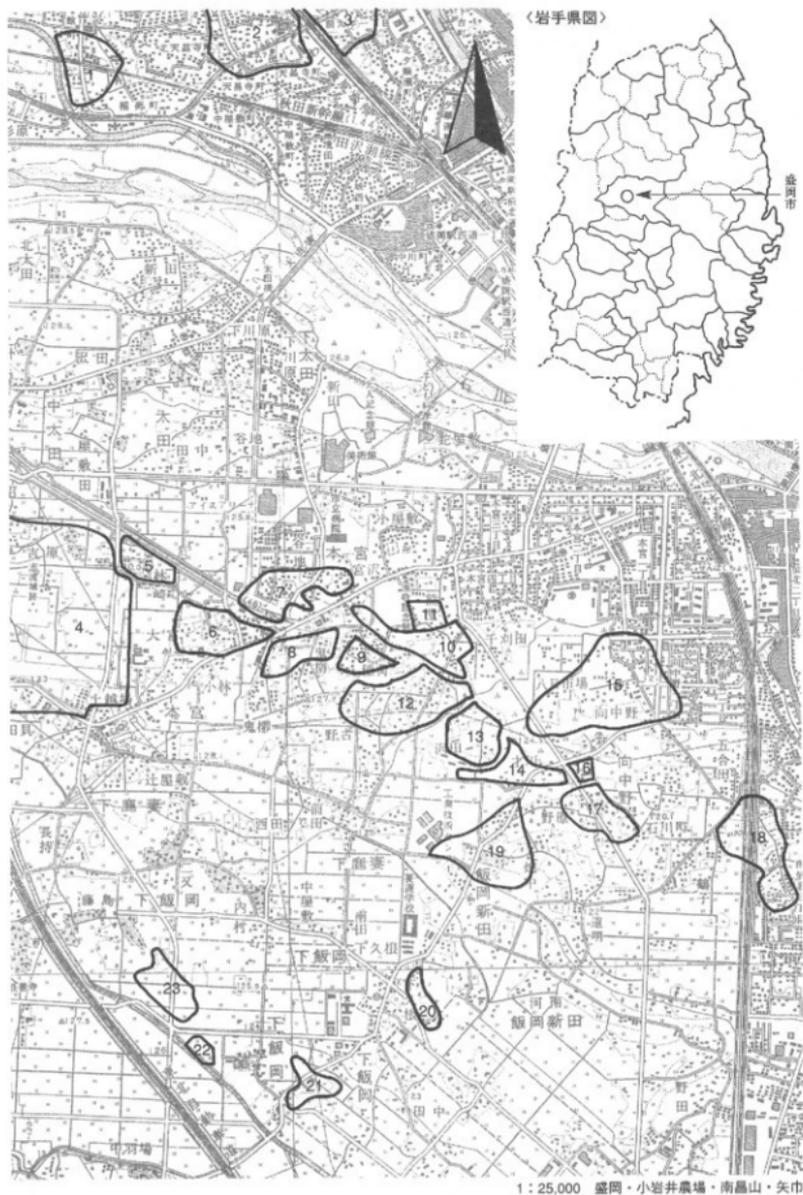
〈飯岡才川遺跡〉 第2次調査で3基、第3次調査で2基、第4次調査で2基と数次の調査にわたり溝状の陥し穴状遺構が確認されている。

〈細谷地遺跡〉 第4・5次調査では、矢盛遺跡に近い西側で陥し穴状遺構が23基確認されており、そのうち1基の埋土からは縄文晩期の土器片や石器の剥片が出土している。

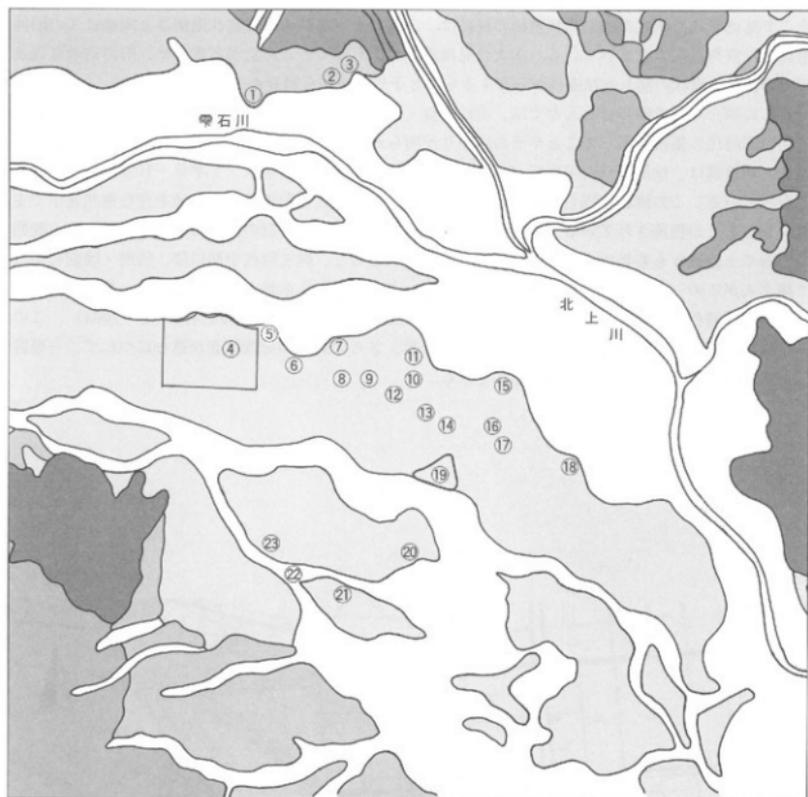
〈飯岡林崎II遺跡〉 第1・3次調査では、遺構外から字工字文風の模様のある大洞C2～A式の鉢、旧河道から晩期末葉～弥生時代前期の浅鉢、深鉢、壺型土器の破片、石匙等の石器類が出土している。

〈志波城跡〉 溝状の陥し穴状遺構が、第23次調査で2基、第37次調査で3基、第82調査で1基確認されているほか、第35・64・65次では遺構埋土中から石鏃や縄文時代～弥生時代の土器片などが僅かずつ出土している。

〈矢盛遺跡〉 過去に第4次までの発掘調査が行われている。当センターが担当した第1次調査では、古代の住居跡発掘にとどまったが、第3・4次調査においては、旧河道沿いの西側に多数の陥し穴状遺構が分布したことが確認されている。飯岡才川第2次調査区は第5・6次調査区の真北200mにあり、

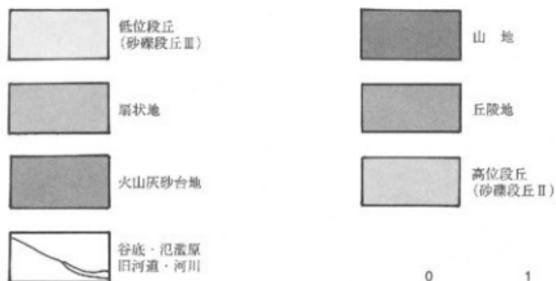


第1図 遺跡の位置及び周辺の遺跡分布



①～㉓は第1図1～23と同じ

1 : 25,000



第2図 周辺の地質分類と遺跡の位置

そこで確認された溝状の陥し穴状遺構の長軸は、3基とも本遺跡の陥し穴状遺構群と同様にこの旧河道にはほぼ直角な向きをとっている。本次の発掘調査に際しても、この点が考慮され、旧河道の存在及びその西側に溝状の陥し穴状遺構が分布するものと予想しながら調査が進められた。

ここに紹介した遺跡のほとんどでは、主に奈良・平安時代の竪穴式住居跡や遺物が発掘され、この一帯に同時代の集落があったことやその広がりが見らかなりつつある。一方、各遺跡で発掘された陥し穴状遺構は、検出された平面形が全て溝状を呈し、横断面もV字状・Y字状・U字状のいずれかになっている。この溝状の陥し穴状遺構については、縄文時代中期以降に当地域を含む東北半で主流になることが指摘されている（坂本・杉野森1997）が、さらに一部の遺跡の調査区内から後・晩期の土器や土器破片も多数出土していることを考え合わせると、縄文時代中期以降、後期・晩期にかけて縄文人がこの一帯で狩猟を含む活動の場としていたことは疑う余地がない。その後、長い時を経て奈良・平安時代になるころには耕作地としての開拓がすすみ（岩手埋文報告書454集 2004）、この一帯に集落が広がってきたものと考えられる。今後、さらに周辺の発掘調査が進むにつれて、一層詳しい状況が明らかになるものと期待されている。

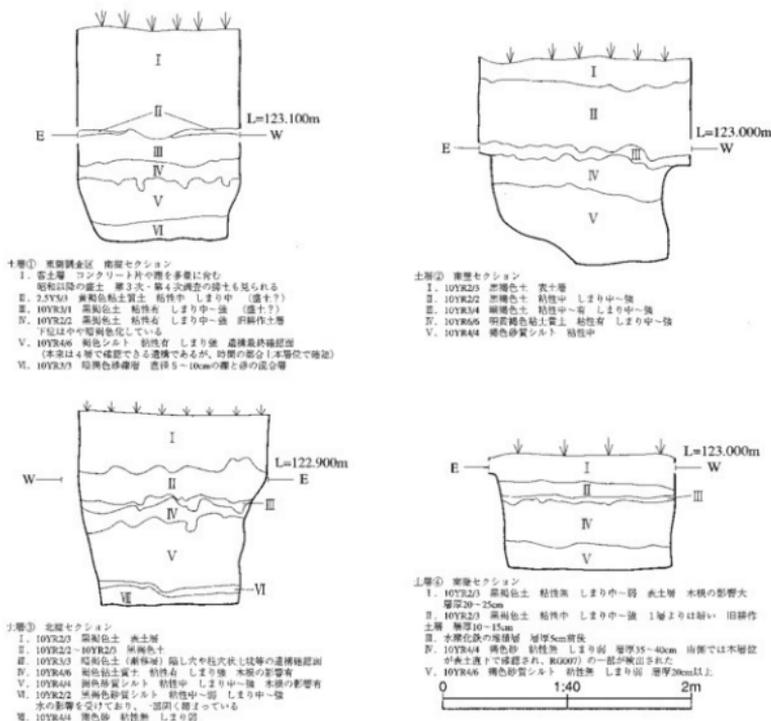


第3図 遺跡周辺の地形と第6次調査区位置

## 4 基本層序

調査区域の東側3分の2（以下東区）は、旧都南村が盛岡市に合併吸収されるまでは、同村営住宅地の一部であった。その後の住宅撤去時には、従来の盛り土が残され、さらには撤去すべき住宅の基礎や便槽や排水槽、下水管、その他の廃材等が随所に隠蔽されたようである。したがって、これらの隠蔽によって、本次調査の遺構検出面の下にまで及ぶような深い擾乱を受けた箇所が随所に見られた。同様の状況については、第3・4次調査区内の状況とほとんど変わらないため、東区の基本層序は、当センターによる第3次調査の報告書（第451集）を合わせて参照されたい。

また、本次調査区の西側3分の1（以下、西区）は、東区との間に第5次調査区を挟み、およそ西南西に細長く伸びる部分である。西区一帯は休耕田で、本来の地表であると考えられる。したがって、ここでは、西区の南北両調査区境の土層断面を3箇所、並びに東側調査区の南東部調査区境の土層断面を1箇所掲載する。（断面の位置は遺構配置図参照のこと）



第4図 基本土層



### Ⅲ 野外調査と室内整理の方法

#### 1 野外調査

##### (1) グリッドの設定

調査にあたっては、遺構及び遺物その他の検出位置を定めるためのグリッドを設定した。北に隣接する久盛遺跡第3次・4次調査区など盛岡南新都市開発計画に基づいて実施された先行調査遺跡との連続性を維持するため、調査座標の設定にあたっては盛岡市教育委員会が旧日本測地系に基づき定めた座標に準ずるものとした。実際には、平面直角座標第X系の $X = -36150.000$ 、 $Y = 26000.000$ の地点を起点として東に50m区切りで「A・B・C」、西に「-A」とし、同様に起点から南に50m区切りで「3・4」と区切り、一辺50mの大グリッドを設け、「3-A」「3A」「3B」のように命名した。さらに、大グリッドの内部を東西方向及び南北方向に2mごとに区切り、西から東に「a~y」とし、北から南に「1~25」として、「2a」「4c」のように命名した。これらを合わせて、大グリッド「3A」の小グリッド「12b」は「3A12b」と呼ぶことにした。

なお、設定したグリッドに従った杭打ちには、独立行政法人都市再生機構岩手都市開発事務所が日本測地系に基づき設置した基準杭を借用した。

第2表 起点および基準杭などの座標

	旧日本測地系	世界測地系
起 点	$X = -36150.000$	$X = -35842.312$ (北緯 39度40分36秒)
	$Y = 26000.000$	$Y = 25700.419$ (東経141度07分59秒)
基準杭 1	$X = -36200.000$	$X = -35892.313$ (北緯 39度40分35秒)
	$Y = 25990.000$	$Y = 25690.419$ (東経141度07分58秒)
基準杭 2	$X = -36200.000$	$X = -35892.313$ (北緯 39度40分35秒)
	$Y = 26060.000$	$Y = 25760.418$ (東経141度08分01秒)
補助杭 1	$X = -36232.000$	$X = -35924.313$ (北緯 39度40分34秒)
	$Y = 25990.000$	$Y = 25690.419$ (東経141度07分58秒)
補助杭 2	$X = -36180.000$	$X = -35872.313$ (北緯 39度40分35秒)
	$Y = 26080.000$	$Y = 25780.417$ (東経141度07分02秒)

##### (2) 粗掘りと遺構検出

本調査の期間中に並行して第5次調査が実施されたが、発掘作業及び排土処理等を円滑に行う関係もあり、試掘トレンチの設定から粗掘り・検出・精査までを一括して進めた。したがって、検出した遺構についても一括して取り扱い、遺構名も検出が進んだ順に連番で登録してある。

調査開始にあたっては、調査区の北辺及び南辺に沿って2×5m程度の試掘トレンチを設定し、土層の状況把握に努めた。その時点では、東区でも残存物を含む掘乱には全く当たらず、若干の表土の下には概ね1m程度の黒ボクの盛り土があると考えられた。そのため、大型重機2台（パワーショベル：0.7及び0.4）を使用し短期間で検出面を露出できると考えたが、実際には、多量の廃棄物を含む攪乱の多さや、南北それぞれの調査区境を流れる農業用水路からの漏水対策などのため、検出面に到達するまでに通常の倍以上の時間と労力を費やした。

## 1 野外調査

特に攪乱部分については、検出面からさらに深く掘って廃棄物を埋めているところが多く、作業員の手掘りや大型重機により慎重に採りを入れた。その結果、比較的浅いと判断できる攪乱については廃棄物の掘り出しを行い底部の状況を観察したが、検出面の褐色土層より1m程度下がると周囲の地下水が滲み出す状況のため、この一帯では検出面（褐色土層）以下の深さには遺構がないものと判断した。その結果、規模の大きい攪乱と深く埋まった大型の廃棄物は残し、攪乱のない部分についてのみ遺構の検出を進めた。

### (3) 遺構の命名

検出された遺構の登録にあたっては、以下に示したとおりの盛岡市教育委員会指定の分類記号にアラビア数字を添付して命名した。なお、柱穴状小土坑以外の遺構の命名に用いる番号は、同委員会からの要請により、いずれも矢筈遺跡第3・4次調査の登録遺構の最後尾に続く番号から始め、それぞれの遺構番号が第1次調査から通算されるようにしている。

土坑・陥し穴状遺構…RD      竪穴状遺構…RE      溝跡…RG  
井戸跡…RI      柱穴状小土坑…PP

### (4) 遺構の精査と実測

検出された遺構は2分法を原則として精査を行い、中小土坑及び陥し穴状遺構については原則として中央部付近に半載断面又はベルトを設定し横断面を記録した。また、大型の土坑及び竪穴状遺構については、十字にベルトを設定し、2方向の断面を記録した。また、必要に応じて空断面図を作成した。これらの記録は精査の各段階において行っている。

各遺構についての平面実測は簡易遣り方測量或いは光波測定器による測量で行い、断面実測は全て簡易やり方測量で行った。なお、各実測図（平面図・断面図）の縮尺は1/20を基本として作成した。

### (5) 写真撮影

野外調査での写真撮影は、6×7cm判カメラ（白黒）と35mm判カメラ（白黒・カラーリバーサル）各1台を使用し、この他にデジタルカメラ1台をフィールドカード作成等のメモ的な用途に併用した。

## 2 室内整理

### (1) 作業手順

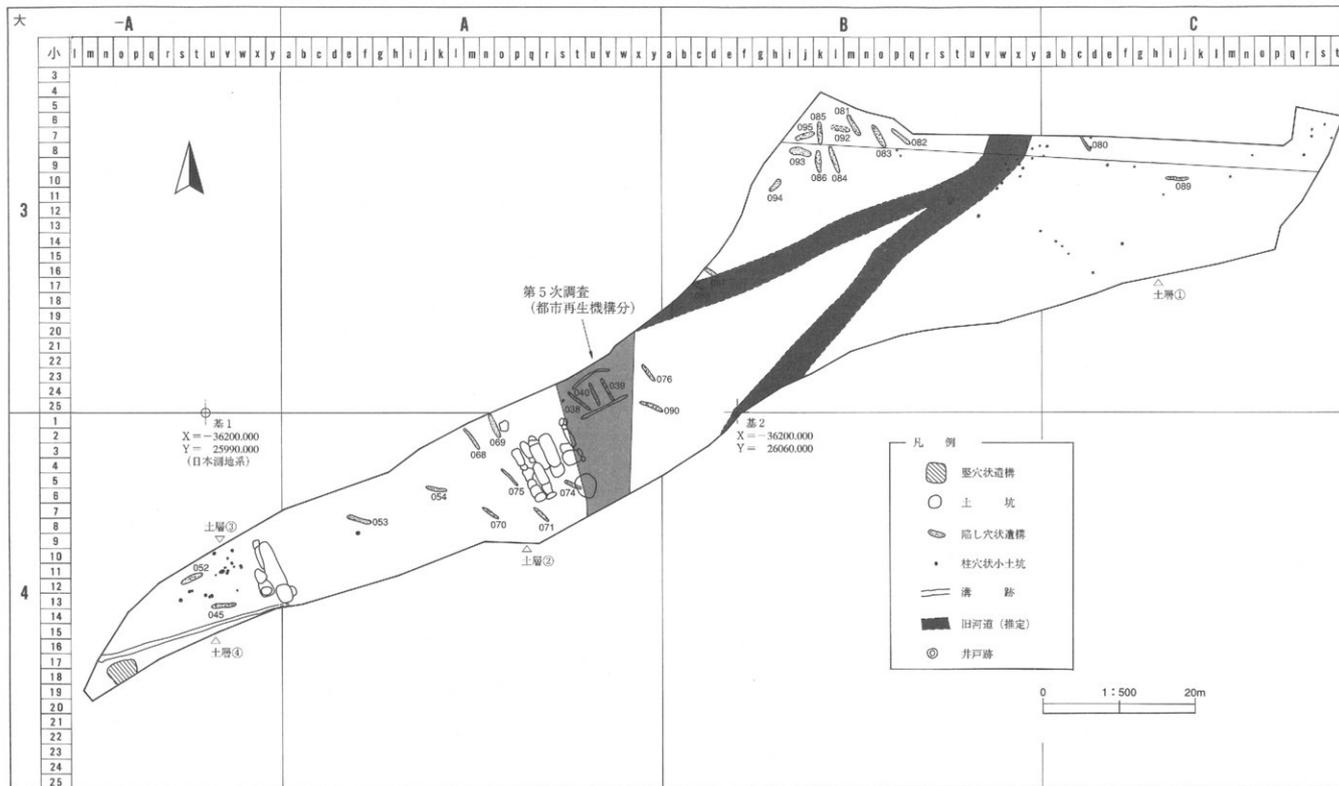
室内整理は現場で洗浄した遺物の注記作業から開始し、遺物毎の仕分け、実測作業、拓本、遺物と遺構のトレース、遺物の写真撮影、遺物と遺構の図版作成、写真図版作成の順に作業を進めた。これらの作業と並行して遺物の計測、原稿の執筆、各種遺物の鑑定等を行い報告書に掲載した。

### (2) 遺構の整理

報告書図版中における各遺構図面は一部に縮尺を変更したものもあり、図面にはそれぞれスケールを付した。なお、平面図における方位矢印は座標北を示している。

### (3) 遺物の整理

遺物は小片が多く、破片実測を主体に行い、図版及び写真図版の縮尺は1/3として掲載している。



第6図 矢盛遺跡第6次調査遺構配置図

## IV 検出された遺構と出土遺物

### 1 調査の概要

今回の調査で検出された遺構は、土坑57基、井戸跡1基、溝跡1条、堅穴状遺構1基、柱穴状小土坑62個を検出し登録した。これらのうち土坑26基は、開口部が細長い溝状の平面形を有するなどの特徴から縄文時代の陥し穴状遺構と断定したが、その他の遺構は全て時期不明である。また、遺物は、遺構内外から縄文土器片4点、土師器破片14点、陶磁器破片12点、石器1点を登録した。

#### 〈東区の旧河道について〉

東区の北辺には、調査区境を挟んで第4次調査地区が接し、その中央付近には北北東から南南西に延びる旧河道が存在している。現在のところ上下流の区別は明らかではないが、この旧河道は、さらに東区に南下して南西に折れ、直後に二手に分かれ、一方（以下、北側旧河道）は西南西に延び第5次調査区の手前で調査区外に出ている。他方（以下、南側旧河道）はさらに南西にのびて南側調査区境にぶつかる付近でやはり西南西に折れていると考えられる。北側旧河道と南側旧河道の新旧関係を示す資料ほとんど無いが、一部の陥し穴状遺構は北側旧河道の埋土を掘り抜いてつくられている。また、この旧河道の東端は、東北東に近接する細谷地遺跡に延びているものと推定される。（第22図参照）

### 2 陥し穴状遺構

旧河道の西側一帯を中心として、軸方向がほぼ北北西～西を示す細長くて深い溝状の土坑が26基発掘された。いずれも平面形は溝状で横断面形は急なV字状、又はY字状、あるいはU字状を呈し、開口部の幅は長軸3.2～4.4m、短軸0.3～0.8m、深さ0.7～1.2mで断続的に一定の間隔を置いて分布する様子がうかがわれる。遺構の内部は、開口部から底部に向かって長軸方向に底が広がるフラスコ状の形態を呈しており、短軸方向は横断面が示すとおり極端に狭いものが多い。なお、一部の遺構では、底部からの湧水が激しく、断面下部を十分に観察することが出来なかった。

遺構内からの遺物の出土は全く無く、逆茂木の痕跡等も認められなかった。

#### RD045陥し穴状遺構（第7図、写真図版4）

〈位置・検出状況〉4-A13u～4-A13vグリッド

〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。

〈長軸方向〉N-83°-E

〈規模〉開口部は長径22×短径62cm。横断面付近の深さ80cm。

〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。

〈底面〉褐色土。

〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

#### RD052陥し穴状遺構（第7図、写真図版4）

〈位置・検出状況〉4-A11t～4-A12sグリッド

〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。

〈長軸方向〉N-65°-E

〈規模〉開口部は長径310×短径62cm。横断面付近の深さ94cm。

〈埋土〉雨水など流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。

〈底面〉暗褐色～褐色砂質土。

〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

**RD053陥し穴状遺構（第7図、写真図版4）**

〈位置・検出状況〉4A7e～4A8fグリッド

〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。

〈長軸方向〉N-77°-W

〈規模〉開口部は長径326×短径48cm。横断面付近の深さ59cm。

〈埋土〉雨水など流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。

〈底面〉グライ化した粘土層。

〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

**RD054陥し穴状遺構（第7図、写真図版4）**

〈位置・検出状況〉4A5j～4A6kグリッド

〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。

〈長軸方向〉N-80°-W

〈規模〉開口部は長径278×短径42cm。横断面付近の深さ76cm。

〈埋土〉雨水など流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。

〈底面〉グライ化した粘土層。

〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

**RD068陥し穴状遺構（第7図、写真図版4）**

〈位置・検出状況〉4A2m～4A3mグリッド

〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。

〈長軸方向〉N-36°-W

〈規模〉開口部は長径360×短径36cm。横断面付近の深さ64cm。

〈埋土〉雨水など流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。

〈底面〉グライ化した粘土層。

〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

**RD069陥し穴状遺構（第7図、写真図版5）**

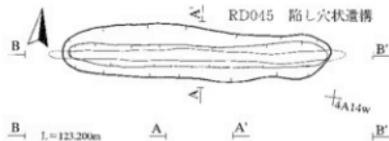
〈位置・検出状況〉4A1n～4A2oグリッド

〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。

〈長軸方向〉N-26°-W

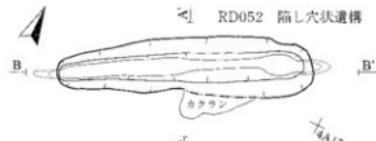
〈規模〉開口部は長径358×短径36cm。横断面付近の深さ102cm。

〈埋土〉雨水など流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。



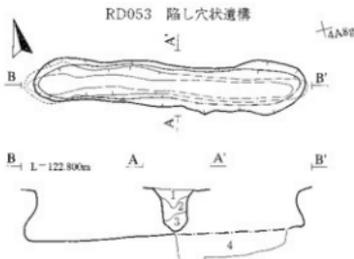
## RD045 (陥し穴)

1. H0YR22 黒褐色土 粘液中 しまり中
2. H0YR23 黒褐色土 粘液中～黄 しまり中～強 黒灰土ブロック混入
3. H0YR25 黒褐色土 粘液中 しまり中 黒灰土ブロック多量混入 (2層に達し)
4. H0YR44 褐色土 粘液中～黄 しまり中～強 黒褐色土でよこれている (強粘滞土)
5. H0YR46 褐色土 粘液中 しまり中 黒灰土ブロック混入



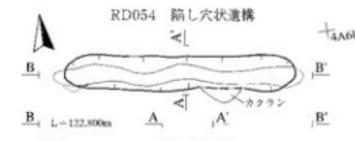
## RD052 (陥し穴)

1. H0YR22 黒褐色土 粘液中 しまり中 褐色土ブロック少量混入
2. H0YR23 黒褐色土 粘液中 しまり中 褐色土ブロック多量混入
3. H0YR46 褐色土 粘液中 しまり中 褐色土ブロック混入 (強粘滞土?)



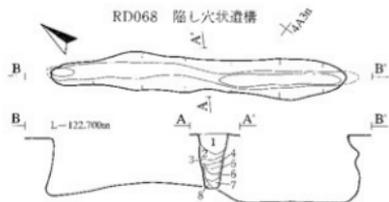
## RD053 (陥し穴)

1. H0YR21 黒色粘土質土 粘液中 しまり強
2. H0YR66 明黄褐色土質土 粘液中 しまり中～強 黒色土と互層になっている
3. H0YR21 黒色粘土質土 粘液中 しまり中 褐色砂質土ブロック混入 一部グライ化している
4. グライ化した粘土層 (4リヤス?)



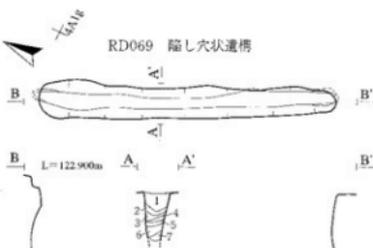
## RD054 (陥し穴)

1. H0YR21 黒色粘土質土 粘液中 しまり強
2. H0YR21 黒色粘土質土 粘液中 しまり中 黒色土と互層になっている
3. H0YR54 におい黄褐色土 粘液中～強 しまり中 黒色土ブロック混入
4. H0YR44 褐色土 粘液中 しまり中
5. H0YR21 黒色粘土質土 粘液中 しまり中～強



## RD068 (陥し穴)

1. H0YR23 黒色粘土質土 粘液中 しまり中
2. H0YR54 におい黄褐色土 粘液中 しまり中 黒色土ブロック混入
3. H0YR21 黒色粘土質土 粘液中 しまり中～強 におい黄褐色土ブロック混入
4. H0YR54 におい黄褐色土 粘液中 しまり中 黒色土ブロック混入
5. H0YR23 黒色粘土質土 粘液中 しまり中～強 におい黄褐色土ブロック混入
6. H0YR54 におい黄褐色土 粘液中 しまり中 黒色土ブロック混入
7. H0YR23 黒色粘土質土 粘液中 しまり中～強 におい黄褐色土ブロック混入
8. H0YR46 褐色砂質土 粘液中～強 しまり中 強粘滞土



## RD069 (陥し穴)

1. H0YR21 黒褐色土質土 粘液中 しまり中
2. H0YR54 におい黄褐色土 粘液中 しまり中 黒色土ブロック混入
3. H0YR23 黒褐色土質土 粘液中 しまり中 におい黄褐色土ブロック混入
4. H0YR54 におい黄褐色土 粘液中 しまり中 黒色土ブロック混入
5. H0YR23 黒褐色土質土 粘液中 しまり中 におい黄褐色土ブロック混入
6. H0YR54 におい黄褐色土 粘液中 しまり中 黒色土ブロック混入
7. 586/3 灰灰粘土質土 粘液中 しまり中 黒色土でよこれている (黒色粘土質土がグライ化したもの)

0 1:60 2m

第7図 陥し穴状遺構 (1)

〈底面〉グライ化した粘土層。

〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

**RD070**陥し穴状遺構（第8図、写真図版5）

〈位置・検出状況〉4A7n~4A8oグリッド

〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。

〈長軸方向〉N-55°-W

〈規模〉開口部は長径286×短径26cm。横断面付近の深さ62cm。

〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。

〈底面〉グライ化した粘土層。

〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

**RD071**陥し穴状遺構（第8図、写真図版5）

〈位置・検出状況〉4A7q~4A8rグリッド

〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。

〈長軸方向〉N-46°-W

〈規模〉開口部は長径284×短径44cm。横断面付近の深さ94cm。

〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。

〈底面〉褐色土~褐色粗砂。

〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

**RD074**陥し穴状遺構（第8図、写真図版5）

〈位置・検出状況〉4A5s~4A6tグリッド

〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。

〈長軸方向〉N-63°-W

〈規模〉開口部は長径304×短径42cm。横断面付近の深さ72cm。

〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。

〈底面〉褐色土。

〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

**RD075**陥し穴状遺構（第8図、写真図版5）

〈位置・検出状況〉4A4o~4A5pグリッド

〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。

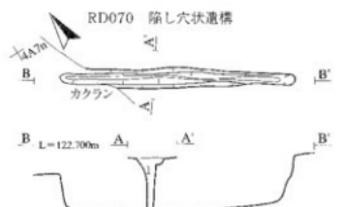
〈長軸方向〉N-45°-W

〈規模〉開口部は長径294×短径16cm。横断面付近の深さ74cm。

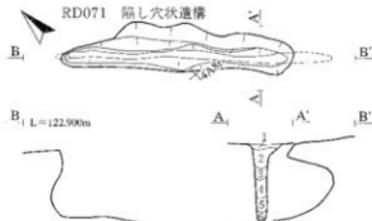
〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。

〈底面〉グライ化した粘土層。

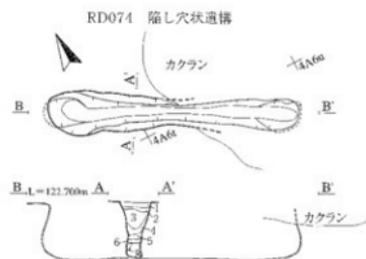
〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。



RD070 (陥し穴)  
1. 10YR24 黒色粘土質土 粘性强 しまり中 下部は一部クライ化している



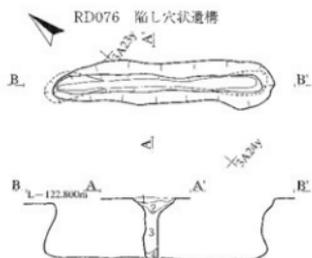
RD071 (陥し穴)  
1. 10YR22 黒褐色土 粘性强 しまり中  
2. 10YR19 暗褐色土 粘性强 しまり中-強  
3. 10YR46 褐色土 粘性强 しまり強 黒褐色土砂混入 (壁線部上)  
4. 10YR44 褐色土 粘性强 しまり強 黒褐色土砂混入 (壁線部上)  
5. 10YR44 褐色土 粘性强 しまり強 黒褐色土砂混入 (壁線部上)  
6. 10YR23 黒褐色土 粘性强 しまり中-強



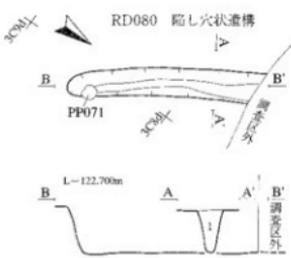
RD074 (陥し穴)  
1. 10YR29 黒色粘土質土 粘性强 しまり強 水酸化鉄混入  
2. 10YR78 黒褐色粘土質土 粘性强 しまり中-強  
3. 10YR27 黒褐色土 粘性强 しまり中-強 黒褐色土ブロック混入  
4. 10YR46 褐色土 粘性强 しまり強 黒褐色土・褐色土ブロック混入  
5. 10YR22 黒褐色土 粘性强 しまり強  
6. 10YR46 褐色土 粘性强 しまり強 黒褐色土ブロック混入  
7. 10YR22 黒褐色土 粘性强 しまり強  
8. 10YR46 褐色土 粘性强 しまり強 黒褐色土ブロック混入



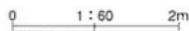
RD075 (陥し穴)  
1. 10YR24 黒色粘土質土 粘性强 しまり強 黒褐色土ブロック混入



RD076 (陥し穴)  
1. 10YR22 黒褐色土 粘性强 しまり中  
2. 10YR29 黒褐色土 粘性强 しまり中 褐色土ブロック少量混入  
3. 10YR44 褐色土 粘性强 しまり中-強 黒褐色土砂少量混入 (壁線部上)  
4. 10YR23 黒褐色土 粘性强 しまり中-強 褐色土砂混入



RD080 (陥し穴)  
1. 10YR29 黒褐色粘土質土 粘性强 しまり強 黒褐色土ブロック混入



第8図 陥し穴状遺構 (2)

RD076陥し穴状遺構（第8図、写真図版6）

- 〈位置・検出状況〉3A22x~3A23yグリッド
- 〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。
- 〈長軸方向〉N-40° -W
- 〈規模〉開口部は長径270×短径50cm。横断面付近の深さ75cm。
- 〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。
- 〈底面〉褐色土層。
- 〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

RD080陥し穴状遺構（第8図、写真図版6）

- 〈位置・検出状況〉3C7c~3C8dグリッド
- 〈重複・新旧関係〉P P 071柱穴状小土坑に切られている。これより古い。
- 〈長軸方向〉N-35° -W
- 〈規模〉調査区外に延びる。開口部は長径232cm以上。短径36cm。横断面付近の深さ24cm。
- 〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。
- 〈底面〉褐色土層。
- 〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

RD081陥し穴状遺構（第9図、写真図版6）

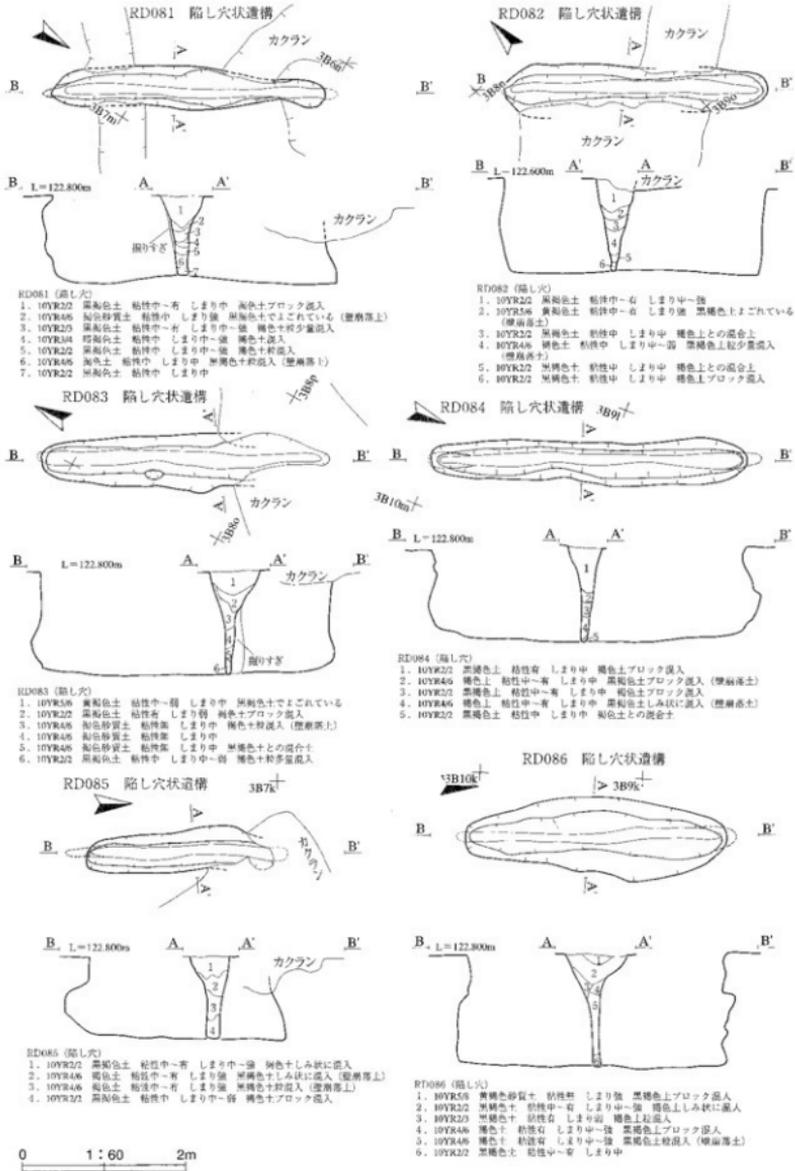
- 〈位置・検出状況〉3B6m~3B7nグリッド
- 〈重複・新旧関係〉旧住宅地道路側溝他と考えられる攪乱で開口部の一部が大きく切られている。
- 〈長軸方向〉N-31° -W
- 〈規模〉調査区外に延びる。開口部は長径316cm以上。短径48cm。横断面付近の深さ104cm。
- 〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。
- 〈底面〉褐色土層。
- 〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

RD082陥し穴状遺構（第9図、写真図版6）

- 〈位置・検出状況〉3B7p~3B8qグリッド
- 〈重複・新旧関係〉旧住宅地道路側溝他と考えられる攪乱で開口部の一部が大きく切られている。
- 〈長軸方向〉N-28° -W
- 〈規模〉開口部は長径318×短径54cm。横断面付近の深さ104cm。
- 〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。
- 〈底面〉褐色土。
- 〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

RD083陥し穴状遺構（第9図、写真図版6）

- 〈位置・検出状況〉3B6n~3B8oグリッド
- 〈重複・新旧関係〉旧住宅地の関連と考えられる攪乱で開口部の一部が大きく切られている。
- 〈長軸方向〉N-49° -W



第9図 陥し穴状遺構(3)

- 〈規模〉開口部は長径352×短径74cm。横断面付近の深さ130cm。
- 〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。
- 〈底面〉褐色土層。
- 〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

**RD084陥し穴状遺構** (第9図、写真図版7)

- 〈位置・検出状況〉3B81～3B91グリッド
- 〈重複・新旧関係〉旧住宅地の関連と考えられる攪乱で開口部の一部が大きく切られている。
- 〈長軸方向〉N-21°-W
- 〈規模〉開口部は長径384×短径48cm。横断面付近の深さ120cm。
- 〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。
- 〈底面〉褐色土層。
- 〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

**RD085陥し穴状遺構** (第9図、写真図版7)

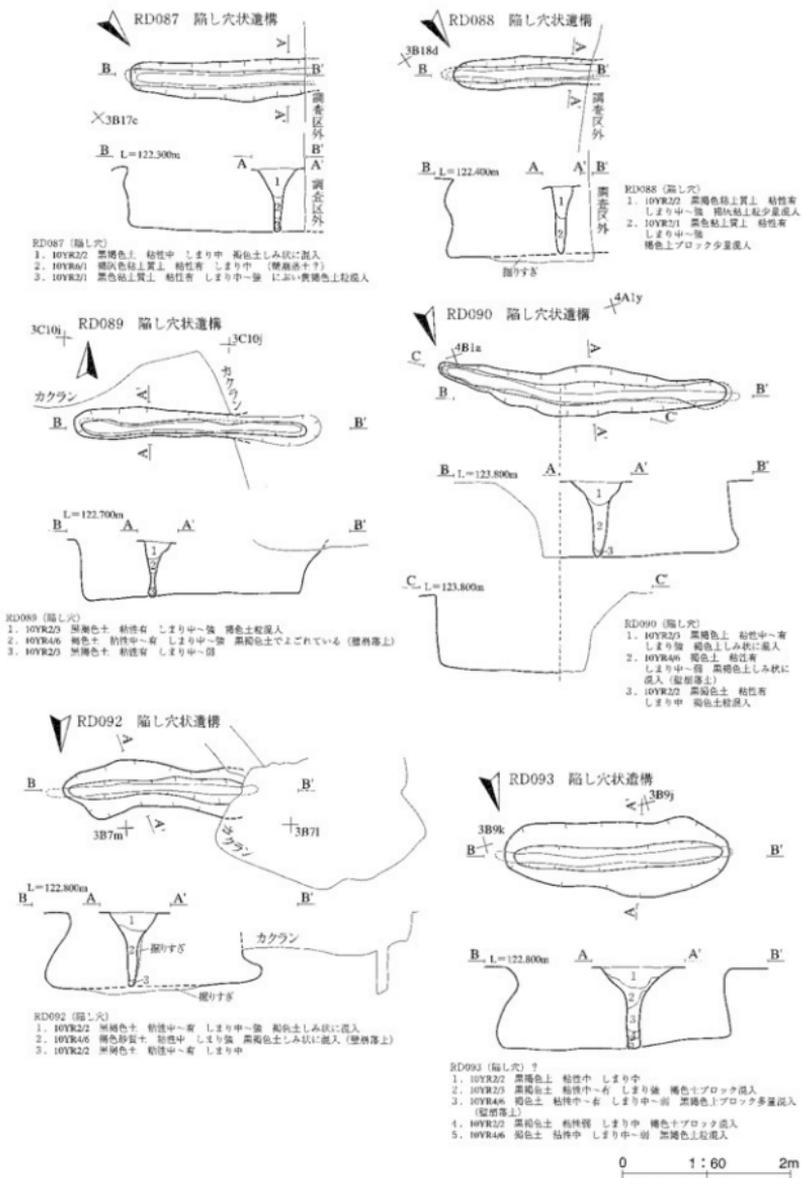
- 〈位置・検出状況〉3B6ki～3B8kグリッド
- 〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。
- 〈長軸方向〉N-3°-W
- 〈規模〉開口部は長径230cm以上。短径54cm。横断面付近の深さ103cm。
- 〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。
- 〈底面〉褐色土層。
- 〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

**RD086陥し穴状遺構** (第9図、写真図版7)

- 〈位置・検出状況〉3B8k～3B9kグリッド
- 〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。
- 〈長軸方向〉N-3°-W
- 〈規模〉開口部は長径326×短径94cm。横断面付近の深さ140cm。
- 〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。
- 〈底面〉砂礫層。
- 〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

**RD087陥し穴状遺構** (第10図、写真図版7)

- 〈位置・検出状況〉3B17b～3B17グリッド
- 〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。
- 〈長軸方向〉N-50°-W
- 〈規模〉調査区外に延びる。開口部は長径212cm以上。短径46cm。横断面付近の深さ78cm。
- 〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。
- 〈底面〉褐灰色粘土層。
- 〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。



第10図 陥し穴状遺構 (4)

RD088陥し穴状遺構（第10図、写真図版7）

- 〈位置・検出状況〉3B17b～3B17dグリッド
- 〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。
- 〈長軸方向〉N-57° -W
- 〈規模〉調査区外に延びる。開口部は長径164cm以上。短径32cm。横断面付近の深さ126cm。
- 〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。
- 〈底面〉グライ化した粘土層。
- 〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

RD089陥し穴状遺構（第10図、写真図版7）

- 〈位置・検出状況〉3C10i～3C10jグリッド
- 〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。
- 〈長軸方向〉N-89° -E
- 〈規模〉開口部は長径398×短径36cm。横断面付近の深さ77cm。
- 〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。
- 〈底面〉褐色土層。
- 〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

RD090陥し穴状遺構（第10図、写真図版8）

- 〈位置・検出状況〉3A25x～3A25yグリッド
- 〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。
- 〈長軸方向〉N-58° -W途中で曲がりN-72° -W
- 〈規模〉開口部は長径300×短径50cm。横断面付近の深さ93cm。
- 〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。
- 〈底面〉褐色土層。
- 〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

RD092陥し穴状遺構（第10図、写真図版8）

- 〈位置・検出状況〉3B6l～3B7m
- 〈重複・新旧関係〉旧住宅地の関連と考えられる攪乱で開口部の一部が大きく切られている。
- 〈長軸方向〉N-89° -W
- 〈規模〉攪乱で一端が破壊され、残存開口部は長径220×短径60cm。横断面付近の深さ100cm。
- 〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。
- 〈底面〉褐色砂質土層。
- 〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

RD093陥し穴状遺構（第10図、写真図版8）

- 〈位置・検出状況〉3B8jグリッド
- 〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。
- 〈長軸方向〉N-75° -W

- 〈規模〉開口部は長径268×短径90cm。横断面付近の深さ70cm。  
 〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。  
 〈底面〉褐色砂質土層。  
 〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

#### RD094陥し穴状遺構（第11図、写真図版8）

- 〈位置・検出状況〉3B10g-3B10h  
 〈重複・新旧関係〉旧住宅地の関連と考えられる攪乱で開口部の一部が大きく切られている。  
 〈長軸方向〉N-51°-E  
 〈規模〉攪乱で一端が破壊され、残存開口部は長径176×短径86cm。横断面付近の深さ75cm。  
 〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。  
 〈底面〉褐色砂質土層。  
 〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

#### RD095陥し穴状遺構（第11図、写真図版8）

- 〈位置・検出状況〉3B7j-3B7k  
 〈重複・新旧関係〉本次調査の試掘トレンチが開口部の一部を切っている。  
 〈長軸方向〉N-74°-W  
 〈規模〉開口部は長径260×短径68cm。横断面付近の深さ52cm。  
 〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。  
 〈底面〉褐色土層。  
 〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

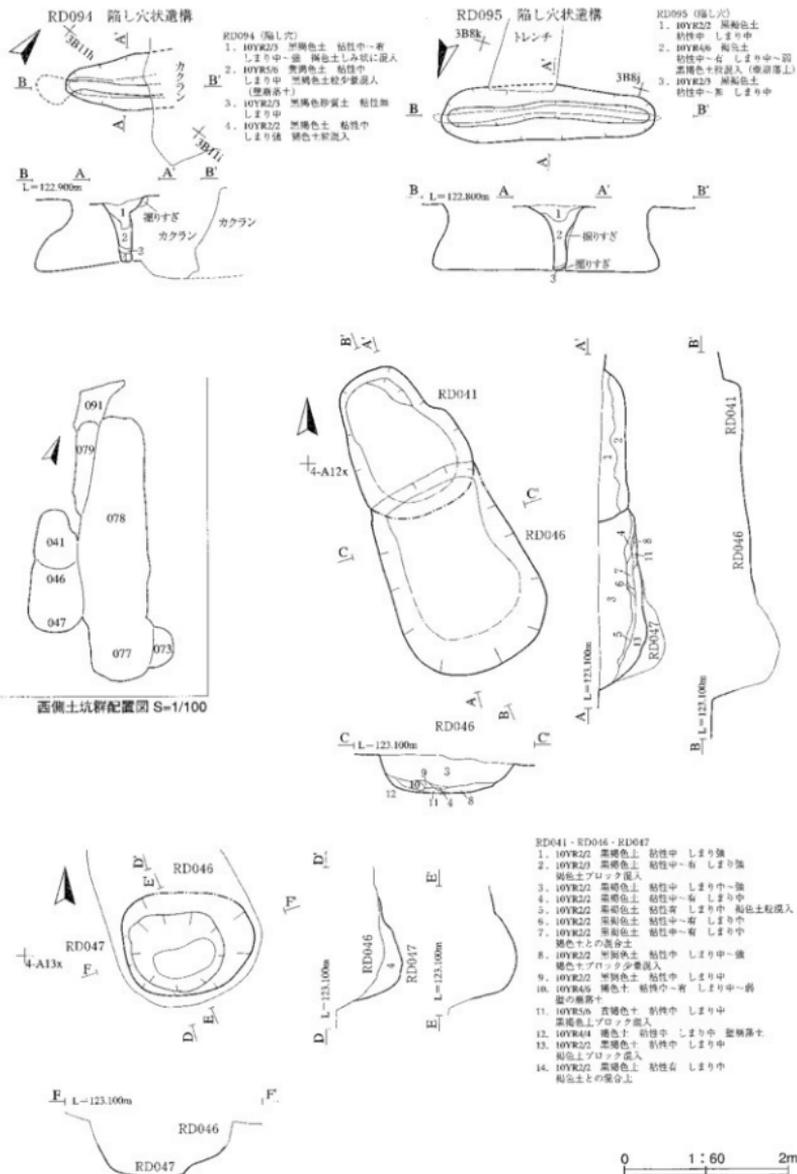
### 3 土 坑

陥し穴状遺構以外の土坑は、西区の中央と東側の2箇所それぞれ密集して検出された。何れの土坑も、底面は、褐色土～にぶい黄褐色土(基本層序IV相当)に達している。

埋土は、何れの土坑でも黄褐色土ブロックを含む混合土であり、人為的に埋め戻されたものと考えられる。調査過程で遺構名が断続的になったため、切り合い関係を表した図版の順に合わせて記載する。なお、若干の遺物も出土しているが、何れの土坑も時代は特定できなかった。

#### RD041土坑（第11図、写真図版9）

- 〈位置・検出状況〉4-A11x-4-A12xグリッド  
 〈重複・新旧関係〉RD046土坑を切っており、RD046土坑より新しい。  
 〈長軸方向〉N-30°-E  
 〈形状・規模〉開口部形状は隅丸台形で、長径200×短径145cm。検出面から最深部まで37cm。  
 〈遺物・時期〉土師器底部破片2点、磁器底体部破片1点が埋土上位から出土した。



第11回 陥し穴状遺構 (5)、土坑 (1)

**RD046土坑**（第11図、写真図版9）

〈位置・検出状況〉4-A12x～4-A13yグリッド

〈重複・新旧関係〉RD047土坑を切っており、また、RD041土坑に切られている。

〈長軸方向〉N-24° - E

〈形状・規模〉開口部形状は隅丸台形。長径270以上×短径180cm。検出面から最深部まで55cm。

〈遺物・時期〉土師器口縁部破片1点、磁器底部～口部破片1点が埋土上位から出土した。

**RD047土坑**（第11図、写真図版9）

〈位置・検出状況〉4-A12x～4-A13yグリッド

〈重複・新旧関係〉RD046土坑の底面によって上部を切られており、これより古いと考えられる。

〈長軸方向〉N-71° - E

〈形状・規模〉RD046土坑底面から切られた開口部の形状は楕円形で、長径160×短径130cm。検出面から最深部まで34cm。

〈遺物・時期〉出土遺物はなかった。

**RD073土坑**（第12図、写真図版9）

〈位置・検出状況〉4A12a～4A13aグリッド

〈重複・新旧関係〉RD077土坑に切られており、RD077土坑より古い。

〈長軸方向〉N-81° - E

〈形状・規模〉開口部形状は不定形で、長径160以上×短径160cm。検出面から最深部まで38cm。

〈遺物・時期〉出土遺物はなかった。

**RD077土坑**（第12図、写真図版9）

〈位置・検出状況〉4-A12y～4A13aグリッド

〈重複・新旧関係〉RD073土坑とRD078土坑を切っており、これらより新しい。

〈長軸方向〉N-36° - E

〈形状・規模〉開口部形状は円形で、長径(240)×短径(230)cm。検出面から最深部まで20cm。

〈遺物・時期〉土師器底部破片2点、磁器底部破片1点が埋土上位から出土した。

**RD078土坑**（第12図、写真図版9・10）

〈位置・検出状況〉4-A9x～4A12aグリッド

〈重複・新旧関係〉RD077・RD046・RD041・RD091土坑に切られ、RD079土坑を切っている。

〈長軸方向〉N-22° - E

〈形状・規模〉開口部は隅丸長方形で、長軸700以上×短軸220cm。検出面から最深部まで20cm。

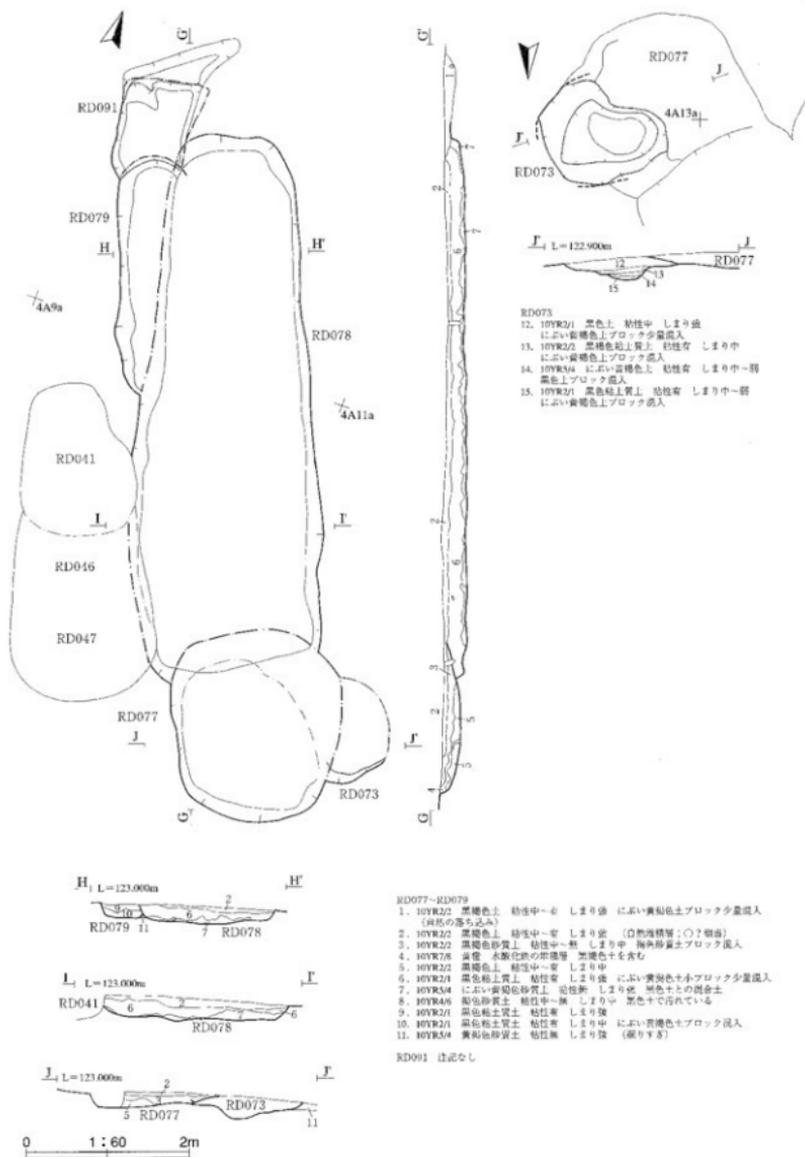
〈遺物・時期〉埋土上位から土師器底部破片、磁器口縁部及び底部破片が各1点ずつ出土した。

**RD079土坑**（第12図、写真図版9・10）

〈位置・検出状況〉4-A9x～4-A11xグリッド

〈重複・新旧関係〉RD078・RD091土坑に切られているので、これらより古い。

〈長軸方向〉N-17° - E



第12図 土坑(2)

〈形状・規模〉開口部形状は楕円形で、長径300×短径(80)cm。検出面から最深部まで26cm。  
 〈遺物・時期〉出土遺物はない。

#### RD091土坑 (第12図、写真図版9)

〈位置・検出状況〉4-A9xグリッド  
 〈重複・新旧関係〉RD078・RD091土坑を切っているの、これより新しい。  
 〈長軸方向〉N-17° - E  
 〈形状・規模〉開口部形状は長方形で、長軸約150×短軸90cm。検出面から最深部まで18cm。  
 〈遺物・時期〉出土遺物はない。

#### RD050土坑 (第13図、写真図版11)

〈位置・検出状況〉4A6q~4A6rグリッド  
 〈重複・新旧関係〉RD051土坑を切っているの、これより新しい。  
 〈長軸方向〉N-53° - E  
 〈形状・規模〉開口部形状は隅丸長方形で、長径160×短径(120)cm。検出面から最深部まで24cm。  
 〈遺物・時期〉出土遺物はない。

#### RD051土坑 (第13図、写真図版11)

〈位置・検出状況〉4A5q~4A6rグリッド  
 〈重複・新旧関係〉RD050土坑に切られており、また、RD061土坑を切っている。  
 〈長軸方向〉N-27° - E  
 〈形状・規模〉開口部形状は隅丸長方形で、長軸(180)×短軸140cm。検出面から最深部まで19cm。  
 〈遺物・時期〉出土遺物はない。

#### RD061土坑 (第13図、写真図版12・13)

〈位置・検出状況〉4A5qグリッド  
 〈重複・新旧関係〉RD062土坑を切っているの、これより新しい。  
 〈長軸方向〉N-27° - E  
 〈形状・規模〉開口部形状は不定形で、長径(140)×短径120cm。検出面から最深部まで39cm。  
 〈遺物・時期〉出土遺物はない。

#### RD062土坑 (第13図、写真図版12・13)

〈位置・検出状況〉4A4p~4A5qグリッド  
 〈重複・新旧関係〉RD063土坑とRD061土坑に切られており、これらより古い。  
 〈長軸方向〉N-27° - E  
 〈形状・規模〉開口部形状は不定形で、長径(220)×短径140cm。検出面から最深部まで33cm。  
 〈遺物・時期〉出土遺物はない。

#### RD063土坑 (第13図、写真図版12)

〈位置・検出状況〉4A4p~4A4qグリッド

〈長軸方向〉N-27° -E

〈形状・規模〉開口部形状は楕円形で、長径(120)×短径90cm。検出面から最深部まで31cm。

〈遺物・時期〉出土遺物はない。

RD037土坑 (第13図、写真図版10・11)

〈位置・検出状況〉4A3p~4A4pグリッド

〈重複・新旧関係〉RD037土坑を切っているの、これより新しい。

〈長軸方向〉N-27° -E

〈形状・規模〉開口部形状は隅丸長方形で、長径(240)×短径100cm。検出面から最深部まで10cm。

〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

RD072土坑 (第13図、写真図版14)

〈位置・検出状況〉4A1o~4A1oグリッド。

〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。

〈長軸方向〉N-S

〈形状・規模〉開口部形状は不定形で、長径146×短径140cm。検出面から最深部まで38cm。

〈遺物・時期〉出土遺物はない。

RD058土坑 (第13図、写真図版13)

〈位置・検出状況〉4A6rグリッド

〈重複・新旧関係〉RD059土坑を切っているの、これより新しい。

〈長軸方向〉N-69° -E

〈形状・規模〉開口部形状は楕円形で、長径140×短径(50)cm。検出面から最深部まで25cm。

〈遺物・時期〉埋土上位から土師器体部破片2点が出土した。

RD059土坑 (第13図、写真図版13)

〈位置・検出状況〉4A5r~4A6rグリッド

〈重複・新旧関係〉RD058土坑とRD062土坑に切られているの、これらより古い。

〈長軸方向〉N-26° -E

〈形状・規模〉開口部形状は隅丸長方形で、長径(190)×短径120cm。検出面から最深部まで16cm。

〈遺物・時期〉出土遺物はない。

RD060土坑 (第13図、写真図版13)

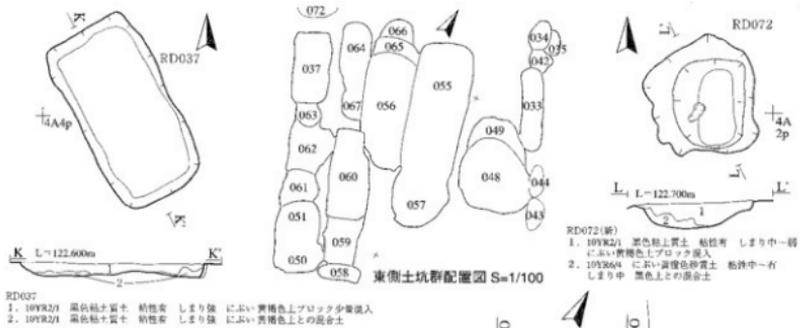
〈位置・検出状況〉4A4q~4A5rグリッド

〈重複・新旧関係〉RD059土坑を切っているの、これより新しい。

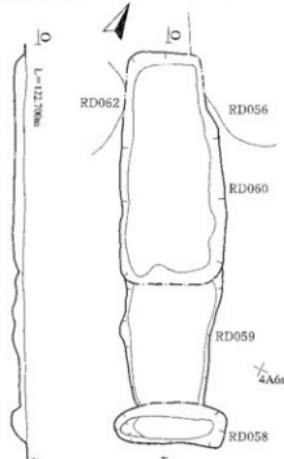
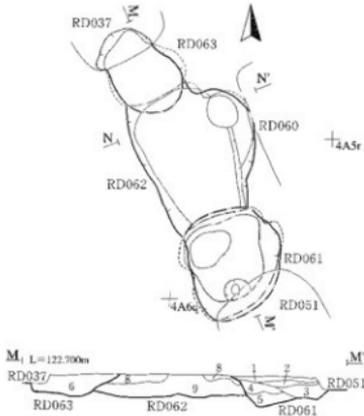
〈長軸方向〉N-26° -E

〈形状・規模〉開口部形状は隅丸長方形で、長径(300)×短径134cm。検出面から最深部まで18cm。

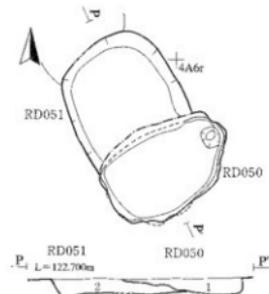
〈遺物・時期〉出土遺物はない。



RD072(新)  
 1. 10YR2/1 黒色粘上質土 粘性强 しまり中一強 におい黄褐色土ブロック混入  
 2. 10Y20/4 におい黄褐色粘質土 粘性强 しまり中 黒色土との混合土



RD061-RD063  
 1. 10YR2/1 黒色粘土質土 粘性强 しまり強  
 2. 10YR2/1 黒色粘土質土 粘性强 しまり強 におい黄褐色上しみに混入  
 3. 10YR2/1 黒色粘土質土 粘性强 しまり中一強 におい黄褐色土少量混入  
 4. 10YR2/1 黒色粘土質土 粘性强 しまり強 におい黄褐色土との混合土  
 5. 10YR2/1 黒色粘土質土 粘性强 しまり中一強 におい黄褐色土少量混入  
 6. 10YR2/1 黒色粘上質土 粘性强 しまり中 におい黄褐色土ブロック混入  
 7. 10YR2/1 黒色粘上質土 粘性强 しまり中 におい黄褐色土小ブロック混入  
 8. 10YR2/1 黒色粘上質土 粘性强 しまり中 におい黄褐色土との混合土  
 9. 10YR2/1 黒色粘上質土 粘性强 しまり中 におい黄褐色土小ブロック混入



第13図 土坑 (3)

RD064土坑（第14図、写真図版13）

〈位置・検出状況〉4A3p～4A3qグリッド

〈重複・新旧関係〉RD062土坑を切っているの、これより新しい。

〈長軸方向〉N-32°-E

〈形状・規模〉開口部形状は隅丸長方形で、長径(240)×短径100cm。検出面から最深部まで10cm。

〈遺物・時期〉出土遺物はないが、形状等の類例から縄文時代の遺構であると推定される。

RD065土坑（第14図、写真図版13・14）

〈位置・検出状況〉4A2q～4A3qグリッド

〈重複・新旧関係〉RD066土坑とRD056土坑によって大きく切られているので、これらより古い。

〈長軸方向〉N-28°-E

〈形状・規模〉開口部形状は不明瞭ながら、断面幅140cm。検出面から最深部まで6cm。

〈遺物・時期〉磁器口縁部破片1点が埋土上位から出土した。

RD066土坑（第14図、写真図版13・14）

〈位置・検出状況〉4A2qグリッド

〈重複・新旧関係〉RD065土坑を切っているの、これより新しい。

〈長軸方向〉N-28°-E

〈形状・規模〉開口部形状は楕円形で、長径106×短径(55)cm。検出面からの最深部まで25cm。

〈遺物・時期〉出土遺物はない。

RD067土坑（第14図）

〈位置・検出状況〉4A5qグリッド

〈重複・新旧関係〉RD062土坑を切っており、また、RD056土坑に切られている。

〈長軸方向〉N-32°-E

〈形状・規模〉開口部形状は不明瞭ながら隅丸正方形に近く、長径(100)×短径(90)cm。検出面から最深部まで9cm。

〈遺物・時期〉出土遺物はない。

RD055土坑（第14図、写真図版13）

〈位置・検出状況〉4A2q～4A4sグリッド

〈重複・新旧関係〉RD065土坑とRD056土坑とRD057土坑を切っているの、これらより新しい。

〈長軸方向〉N-23°-E

〈形状・規模〉開口部形状は隅丸長方形で、長軸(500)×短軸180cm。検出面から最深部まで26cm。

〈遺物・時期〉出土遺物はない。

RD056土坑（第14図、写真図版13）

〈位置・検出状況〉4A3q～4A4rグリッド

〈重複・新旧関係〉RD066土坑とRD056土坑によって切られているので、これらより古い。

〈長軸方向〉N-31°-E

〈形状・規模〉開口部形状は楕円形で、長径(200)×短径(180)cm。検出面から最深部まで44cm。



〈遺物・時期〉出土遺物はない。

RD057土坑（第14図、写真図版13）

〈位置・検出状況〉4A4r～4A5sグリッド

〈重複・新旧関係〉RD055土坑によって切られているので、これより古い。

〈長軸方向〉N-10° -E

〈形状・規模〉開口部形状は楕円で、長径240以上×短径180cm。検出面から最深部まで27cm。

〈遺物・時期〉出土遺物はない。

RD033土坑（第15図、写真図版10）

〈位置・検出状況〉4A2s～4A3tグリッド

〈重複・新旧関係〉RD042土坑を切っているので、これより新しい。

〈長軸方向〉N-28° -W

〈形状・規模〉開口部形状は隅丸長方形で、長径70×短径20cm。検出面から最深部まで24cm。

〈遺物・時期〉出土遺物はない。

RD034土坑（第15図、写真図版11）

〈位置・検出状況〉4A1sグリッド

〈重複・新旧関係〉RD042土坑とRD035土坑を切っているので、これらより新しい。

〈長軸方向〉N-S

〈形状・規模〉開口部形状は楕円形で、長径(100)×短径(70)cm。検出面から最深部まで35cm。

〈遺物・時期〉出土遺物はない。

RD035土坑（第15図、写真図版11）

〈位置・検出状況〉A1sグリッド

〈重複・新旧関係〉RD034土坑に切れ、RD042土坑を切っている。

〈長軸方向〉N-22° -E

〈形状・規模〉開口部形状は楕円形で、長径(80)×短径(70)cm。検出面から最深部まで32cm。

〈遺物・時期〉出土遺物はない。

RD042土坑（第15図、写真図版11）

〈位置・検出状況〉4A1s～4A2sグリッド

〈重複・新旧関係〉RD033土坑とRD034土坑に切られているので、これらより古い。

〈長軸方向〉N-79° -E

〈形状・規模〉開口部形状は楕円形で、長径80×短径76cm。検出面から最深部まで34cm。

〈遺物・時期〉出土遺物はない。

RD048土坑（第15図、写真図版11・12）

〈位置・検出状況〉4A3s～4A4tグリッド

〈重複・新旧関係〉RD049土坑を切っているので、これより新しい。

〈長軸方向〉N-85° - E

〈形状・規模〉開口部形状は隅丸台形で、長径255×短径(200)cm。検出面から最深部まで25cm。

〈遺物・時期〉出土遺物はない。

#### RD049土坑（第15図、写真図版11・12）

〈位置・検出状況〉4A3s～4A3tグリッド

〈重複・新旧関係〉RD048土坑に切られているので、これより古い。

〈長軸方向〉N-29° - E

〈形状・規模〉開口部形状は隅丸長方形で、長径(200)×短径180cm。検出面から最深部まで29cm。

〈遺物・時期〉埋土より、磁器体部破片が出土した。

## 4 井戸跡

調査区の東区の旧河道上で1基検出された。第3・4次調査区で確認されたような井戸枠の板材などは出土していないが、底部が砂礫層（帯水層）まで達していることや円筒形の形状から断定した。

#### RI004井戸跡（第15図、写真図版15）

〈位置・検出状況〉3B11t～3B12tグリッド

〈重複・新旧関係〉重複する遺構は検出されなかった。

〈形状・規模〉開口部形状は三角形に歪んだ円形で、140×140cm。底部の形状はやや楕円形で、長径120×短径110cm。検出面から最深部まで125cm。中端から下端にかけて、側面がややえぐれたように広がっているが、埋土掘削時の掘り過ぎか時期不明の崩落の可能性もある。

〈埋土〉礫が多量に混入した部分と褐色土のブロックが混入した部分などが重なっている。それらの重なり具合を見ると、流水などによるものとは考えにくいので、人為的に埋め立てられたものと考えられる。

〈底面〉砂礫層に達しており、周囲からの湧水が著しい。

〈遺物・時期〉出土遺物はない。

## 5 竪穴状遺構

西区の最西端にあり、南側調査区境の外に延びているが、農業用水路があるため拡張した調査ができなかった。形状から見て、用水路下に1m程度の奥行きが残っているものと推定される。

#### RE001竪穴状遺構（第16図、写真図版14）

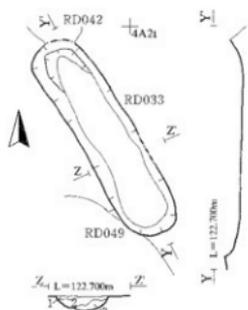
〈位置・検出状況〉4-A17P～4-A18nグリッド

〈重複・新旧関係〉東側の一部が攪乱で切られている。

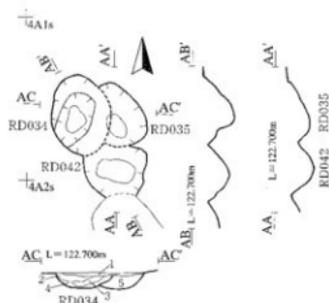
〈長軸方向〉N-71° - E

〈形状・規模〉開口部形状は調査区外に向かって狭くなる隅丸の台形または三角形で、幅390×奥行き280cm以上。検出面から最深部までの深さは40cm。

〈埋土〉各層ともに混合土になっており、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

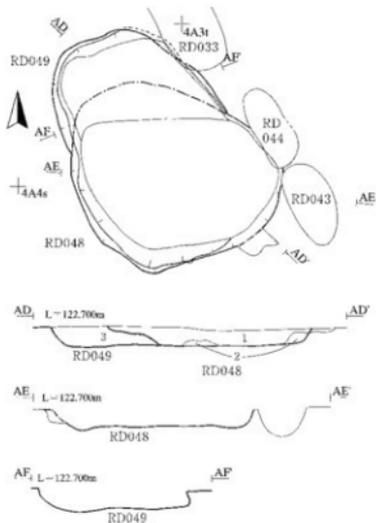


- RD033
1. 10YR2/1 黒色粘土質土 粘性有 しまり強 におい黄褐色土ブロック混入
  2. 10YR3/2 黒褐色粘土質土 粘性有 しまり強
  3. 10YR2/1 黒色粘土質土 粘性有 しまり強 におい黄褐色土ブロック少量混入

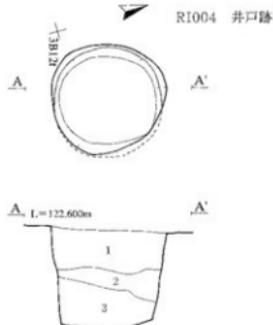


- RD034-RD035
1. 10YR3/4 暗褐色土 粘性有 しまり強 におい黄褐色土ブロック混入
  2. 10YR2/1 黒褐色粘土質土 粘性有 しまり強
  3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有 しまり強
  4. 10YR2/1 黒色粘土質土 粘性有 しまり強 におい黄褐色土ブロック多量混入 (以上 RD034の覆土)
  5. 10YR2/1 黒色粘土質土 粘性有 しまり強 におい黄褐色土ブロック多量 黄褐色土混入 (以上 RD035の覆土)

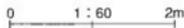
RD042 詳記なし



- RD049-RD049
1. 10YR3/1 赤粘土質土 粘性有 しまり中-強 におい黄褐色土ブロック混入
  2. 10YR5/8 におい黄褐色粘土質土 粘性有 しまり中-強 黒色土で汚れている
  3. 10YR2/1 黒色粘土質土 粘性有 しまり中-強 におい黄褐色土との混入



- R1004
1. 10YR3/1 赤褐色土 粘性有 しまり中 腐多量混入
  2. 10YR2/5 赤褐色土 粘性有 しまり中-強 褐色土ブロック混入
  3. 10YR3/1 赤褐色土 粘性有 しまり中 腐多量混入



第15図 土坑(5)、井戸跡

〈底面〉褐色土層に達している。

〈遺物・時期〉石器の特徴をもつ頁岩の破片が1点出土した。稜線も含めて表面の摩耗が著しく、他からの流入物とも考えられるため、遺構の時期を特定する資料にはしなかった。

## 6 溝 跡

西区最西端からおよそ東に向かって延びる溝跡が1条検出された。わずか1mほど南側にあるRE001竪穴状遺構と何らかの関連があった可能性も考えられる。

### RG007溝跡（第16図、写真図版15）

〈位置・検出状況〉4-A15r～4-A14yグリッド

〈重複・新旧関係〉西側1/3は所々攪乱で切られている。

〈長軸方向〉N-70°-E

〈形状・規模〉ほぼ直線状に延び、長さ24.9×幅1.1～0.3m。検出面から最深度まで16cm。

〈埋土〉雨水などの流入時に周囲から自然に流れ込んで堆積したものと考えられる。

〈底面〉褐色砂質土層上で延びている。

〈遺物・時期〉埋土から土師器杯の口縁部破片と体部破片が合わせて2点出土した。奈良・平安時代以降のものである。

## 7 柱穴状小土坑（第17～19図、写真図版15・16、第3表）

柱穴状小土坑は、検出時には東区北東部及び北部、西区西部に集中して100個を超える多数のプランが検出されたが、精査の結果、57個を登録した。埋土の多くは単層で、有意な柵列或いは掘立柱建物跡を形成するような配列は全く見られなかった。本報告では、埋土中に柱痕或いは杭跡と考えられる跡が残るものや、小規模の配列が考えられるものについて第19図に掲載している。

## 8 出 土 遺 物（第20図、写真図版16）

複数箇所の遺構の埋土あるいは遺構外の検出面付近の地層から、縄文土器片、土師器片及び陶磁器片が少量ながら出土した。いずれの遺物も1基につき1点～3点にとどまり、まとまった数量で出土したものはなかった。何れの場合も、表土及び埋土となる以前の土に混入していた遺物が土とともにたまたま現位置さらには遺構に流入したものであると考えられる。したがって、遺物の年代から遺構の年代を細かく推定するのは控えたい。また、細かい破片も多いため、ここでは、一部の比較的に特徴の分かるものを掲載するにとどめる。

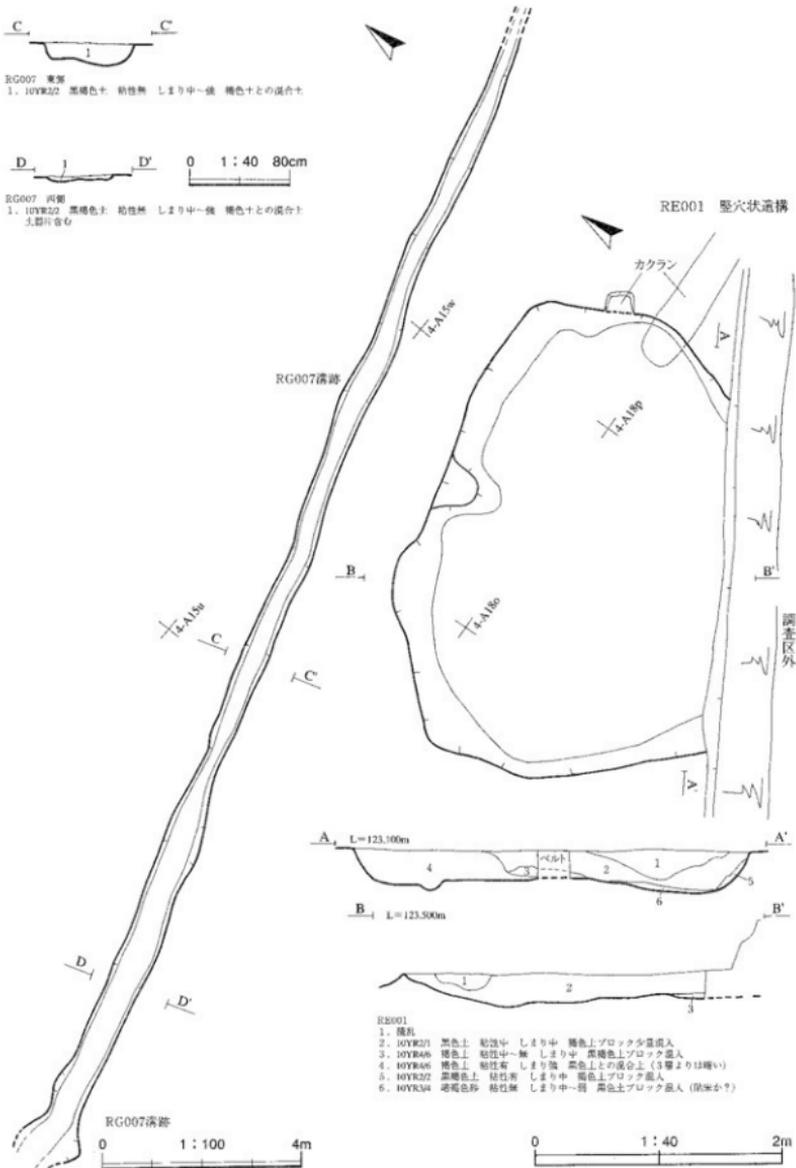


RG007 竪穴  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性無 しまり中～強 褐色土との混合土



RG007 竪穴  
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性無 しまり中～強 褐色土との混合土  
土層川含む

0 1:40 80cm



A-A' L=123.100m

B-B' L=123.500m

RG007溝跡  
0 1:100 4m

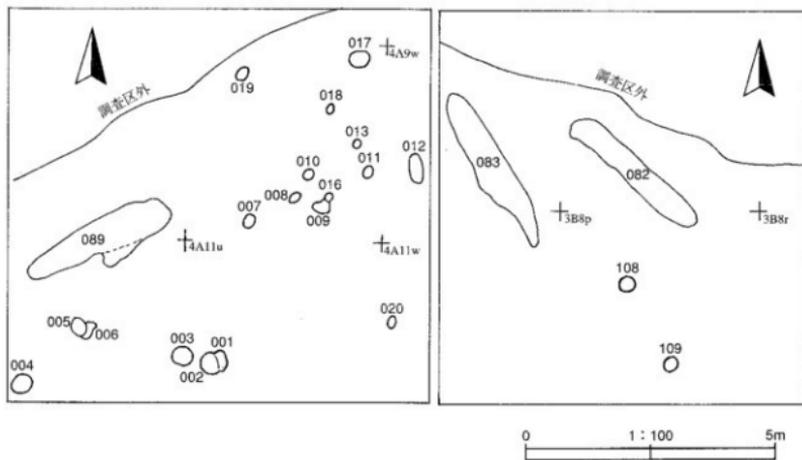
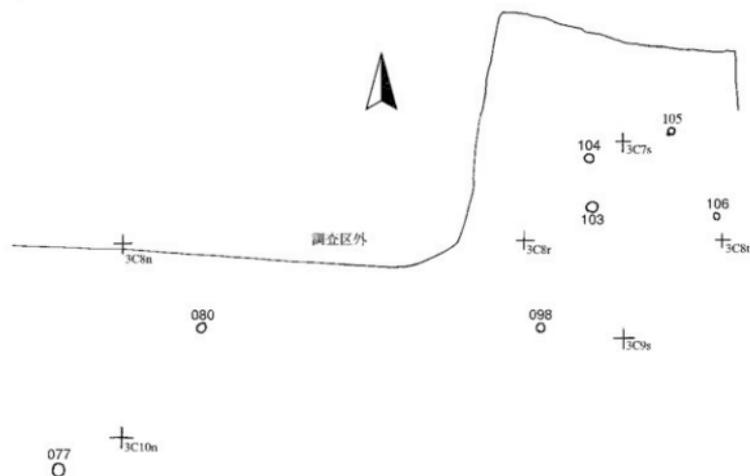
0 1:40 2m

- RE001
1. 焼瓦
  2. 10YR2/1 黒色土 粘液中～しまり中 褐色土ブロック少量混入
  3. 10YR6/6 褐色土 粘液中～強 しまり中 褐色土ブロック混入
  4. 10YR6/6 褐色土 粘性弱 しまり強 褐色土との混合土 (3層より厚い)
  5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性無 しまり中 褐色土ブロック混入
  6. 10YK3/4 赤褐色土 粘性無 しまり中～強 褐色土ブロック混入 (原案か?)

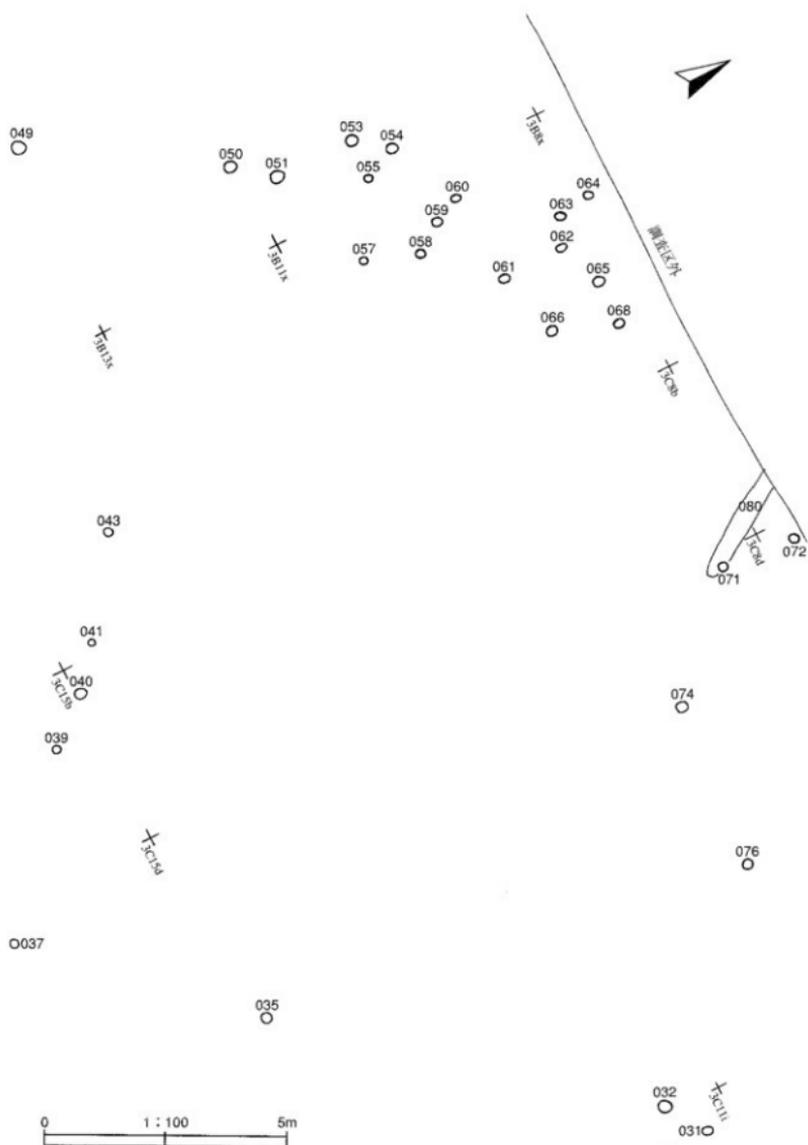
第16図 溝跡、竪穴状遺構

第3表 柱穴状小土坑観察表

発 掘 段 数	遺構名	グリッド	形 状	土 質	実 尺 (cm)			重複及び新旧関係	平 面 部
					開口部 長さ	開口部 幅	中央部 深さ		
1	PP001	4A12a	楕円形	10YR2/2	20	16	27	PP002に切られている。	17
2	PP002	4A12a	楕円形	10YR2/2	34	26	32	PP001を切っている。	
3	PP003	4A12a-12a	円 形	10YR2/2	40	40	25		
4	PP004	4A12a	楕円形	10YR2/2	42	38	20		
5	PP005	4A11a-11a	楕円形	10YR2/2	46	(30)	21	PP006を切っている。	
6	PP006	4A11a	楕円形	10YR2/2	18	(14)	15	PP005を切っている。	
7	PP007	4A10a	楕円形	10YR2/2	28	22	11		
8	PP008	4A10a	楕円形	10YR2/2	66	42	32		
9	PP009	4A10a	楕円形	10YR2/2	40	30	21	PP016を切っている。	
10	PP010	4A10a	円 形	10YR2/2	22	22	16		
11	PP011	4A10a	円 形	10YR2/2+褐色土粒	24	24	17		
12	PP012	4A10a	楕円形	10YR2/2+褐色土粒	66	30	31		
13	PP013	4A10a	楕円形	10YR2/2+褐色土粒	20	16	11		
14	PP015	4A8a-9a	楕円形	黄19R5	56	34	69		
15	PP016	4A10a	楕円形	10YR2/2+褐色土粒	(20)	18	17	PP009に切られている。	
16	PP017	4A9a	楕円形	10YR2/2+褐色土粒	40	32	34		
17	PP018	4A9a	楕円形	10YR2/2+褐色土粒	22	16	15		
18	PP019	4A9a	楕円形	10YR2/2+褐色土粒	32	24	25		
19	PP020	4A11a	楕円形	10YR2/2+褐色土粒	24	18	23		
20	PP031	3C11a	円 形	10YR2/2+褐色土粒	26	26	47		
21	PP032	3C11b	楕円形	10YR2/2+褐色土粒	22	20	22		
22	PP035	3C14f	楕円形	10YR2/2+褐色土粒	22	20	11		
23	PP037	3C16d	楕円形	10YR2/2+褐色土粒	18	16	14		
24	PP039	3C15b	円 形	10YR2/2	16	16	22		
25	PP040	3C14b	円 形	10YR2/2+褐色土ブロック	24	24	37		
26	PP041	3C11a	楕円形	10YR2/2+褐色土ブロック	18	16	25		
27	PP043	3B13y	円 形	10YR2/2+褐色土粒	18	18	25		
28	PP049	3B12a	楕円形	10YR2/2+褐色土ブロック	28	26	19		
29	PP050	3B11w	楕円形	黄19R5	26	24	36		
30	PP051	3B10w	楕円形	10YR2/2+褐色土粒	30	30	63		
31	PP053	3B9a	楕円形	黄19R5	28	24	29		
32	PP054	3B9a	楕円形	10YR2/2	24	22	21		
33	PP055	3B9a	楕円形	10YR2/2+10YR3/3しみ状	24	22	38		
34	PP057	3B10a	円 形	10YR2/2	18	18	16		
35	PP058	3B9a	楕円形	10YR2/2+褐色土ブロック	22	18	13		
36	PP059	3B9a	楕円形	黄19R5	20	18	46		
37	PP060	3B9a	楕円形	10YR2/2	22	20	19		
38	PP061	3B9y	楕円形	10YR2/2に多い黄褐色土粒	24	20	27		
39	PP062	3B8y	楕円形	10YR2/2+褐色土ブロック	22	20	29		
40	PP063	3B8y	楕円形	10YR2/2	24	20	13		
41	PP064	3B7x-7y	楕円形	10YR2/2	18	16	36		
42	PP065	3B8y	円 形	10YR2/2+暗褐色土ブロック	24	24	50		
43	PP066	3C8a	楕円形	黄19R5	22	20	14		
44	PP068	3C8a	楕円形	10YR2/2+褐色土粒	24	22	9		
45	PP071	3C8d	楕円形	10YR2/2に多い黄褐色土ブロック	20	18	35	RD080を切っている。	
46	PP072	3C7d	楕円形	10YR2/2	20	18	18		
47	PP074	3C8e	楕円形	10YR2/2	28	26	20		
48	PP076	3C9g	楕円形	10YR2/2+褐色土ブロック	22	20	28		
49	PP077	3C10m	楕円形	10YR2/2+褐色土ブロック	32	25	32		
50	PP080	3C8m	楕円形	10YR2/2+褐色土ブロック	20	18	20		
51	PP098	3C8r	楕円形	10YR2/2+褐色土塊	20	18	32		
52	PP103	3C7r	楕円形	黄19R5	20	18	22		
53	PP104	3C7r	楕円形	黄19R5	20	18	28		
54	PP105	3C6a	円 形	10YR3/3+褐色土ブロック	16	16	10		
55	PP106	3C7a	楕円形	10YR2/2+褐色土ブロック	13	12	14		
56	PP108	3B8g	楕円形	黄19R5	34	20	51		
57	PP109	3B9r	円 形	黄19R5	30	30	57	旧河道上にある。	

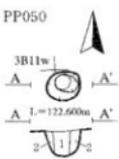


第17図 柱穴状小土坑(1)



第18図 柱穴状小土坑 (2)

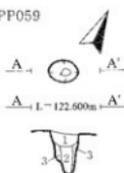
PP050



PP050

1. 10YR2/2.5 黒褐色土 粘性强 しまり中  
褐色土ブロック少量混入 (柱底)
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性中～弱 しまり中  
褐色土ブロック少量

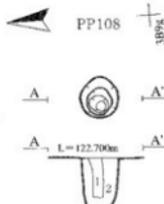
PP059



PP059

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性中～弱 しまり中
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性中 しまり中～強 (柱底)
3. 10YR3/4 黒褐色土 粘性中 しまり中～強  
褐色土ブロック少量混入

PP108



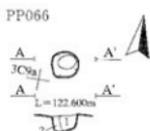
PP108

1. 10YR2/2.5 黒褐色土 粘性强 しまり中  
褐色土ブロック少量混入 (柱底)
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性中 しまり中～強  
褐色土ブロック少量混入



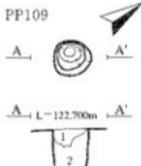
PP055

1. 10YR2/1 黒色土 粘性中 しまり中～弱 (柱底)
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性强 しまり中  
褐色土ブロック混入



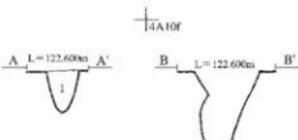
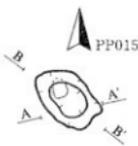
PP066

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性中 しまり中～弱 (柱底)
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性中 しまり中～弱  
褐色土混入



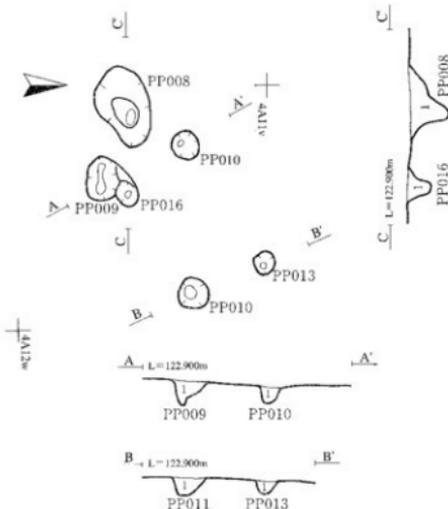
PP109

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性中 しまり中～強  
褐色土ブロック少量混入 (柱底)
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性中～弱 しまり中～強  
褐色土ブロック少量混入



PP015

1. 10YR2/1 黒色粘土質土 粘性强 しまり強  
上面にのみ褐色土ブロック混入



- |       |    |         |      |       |             |
|-------|----|---------|------|-------|-------------|
| PP 8  | 1. | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性中～強 | しまり強        |
| PP 9  | 1. | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性中～強 | しまり中～強      |
| PP 10 | 1. | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性中～強 | しまり強        |
| PP 11 | 1. | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性中～強 | しまり強        |
| PP 12 | 1. | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性中～弱 | 褐色土ブロック混入   |
| PP 13 | 1. | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性中   | 褐色土ブロック少量混入 |

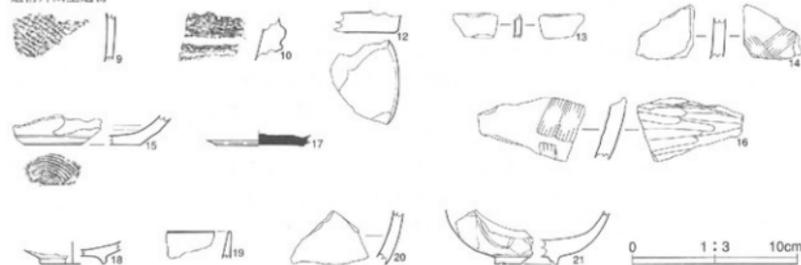
第4表 掲載遺物一覧

掲載番号	分類	部類	部位	重量	出土位置・遺構	粘土・材質等	備考
1	土師器	杯	口縁部破片	3	RG007 黒土製器土	褐色	在池。ロクロ裏有り。平安時代
2	土師器	杯	胴部破片	2	4-A15a RG007 西條へ6小中位	褐色	在池。ロクロ裏有り。平安時代
3	陶磁器	小瓶	底部・胴部破片	10	4-A11x RD041 漚土	灰白色	大塚相馬産。19世紀以降。
4	陶磁器	碗	底面・口縁部破片	28	4-A12x RD046 1層黒色土	白色	産地・時期は不明。
5	陶磁器	碗	口縁部	8	4A2q RD065 黒土上位	灰白色	産地・時期は不明。
6	陶磁器	小瓶	口縁部	5	4-A12y RD077 西條黄土上位	灰白色	産地は不明。19世紀以降。
7	陶磁器	碗	底面(有部)	6	4-A9x RD078 漚土上位	灰色	産地・時期は不明。
8	陶磁器	碗	口縁部破片	7	4-A9x RD078 北のグランド 黒褐色土	灰白色	大塚相馬産。18世紀頃。
9	織文土器	洗鉢	胴部破片	6	東区 埋溝	緑い	産地・時期は不明。
10	織文土器	洗鉢	口縁部付底破片	15	4A15o 黒褐色土層	緑い	産地・時期は不明。
11	石	不明	石器	4	RED01 堅穴状遺構 黒褐色土中位	頁岩	表面が曇しく磨耗している。
12	土師器	壺	底面破片	26	4-A11x RD041 黒土中位 褐色土と混合土の夾	褐色	在池。回転糸知り残。平安時代
13	土師器	埴	外唇破片	2	4A3q RD056 成形器面層	褐色	在池。奈良・平安時代
14	土師器	壺	外唇破片	8	4-A9x RD078 黒褐色土	褐色	在池。奈良・平安時代
15	土師器	埴	底面破片	14	4-A11x RD041 黒土上位褐色土	褐色	在池。奈良・平安時代
16	土師器	壺	外唇破片	22	4A3b 検出面 灰い黄褐色粘土層	褐色	在池。奈良・平安時代
17	灰土器	壺	底面破片	19	西区西條 検出面 黄褐色土層	灰色	在池。ロクロ裏有り。平安時代
18	陶磁器	小瓶	底面	6	西区 黄洋	白色	産地は不明。19世紀以降。
19	陶磁器	小瓶	口縁部	3	西区 黄洋	白色	大塚相馬産。18世紀頃。
20	陶磁器	壺	胴部破片	10	西区秋葉塚 南西側丘(土坑?)漚土	灰色	東北在池 19世紀以降
21	陶磁器	碗	底面破片	30	西区西条	灰色	埋溝産。京瀬川(18世紀)

## 遺構内出土遺物



## 遺構外出土遺物



第20図 出土遺物

## V まとめと考察

### 1 遺構について

本次調査では、縄文時代のもので推定できる陥し穴状遺構が多数検出された。これらについては、第3・4次調査においても類似のものが多数検出されている。それらと合わせて配置や長軸の向きを見ると、まさしく調査区を貫く旧河道の西側に多く配置され、また、旧河道に対して直交する向きをもつものが多く、さらにそれらを補完するように残りの陥し穴状遺構が配置されていると推定される。(第21図)

西区の休耕田下から検出された2つの土坑群は、数基の土坑の埋土から奈良・平安時代の土器片や18～19世紀、或いはそれ以降の陶磁器片を1～3点出土しているだけである。さらに、土坑の埋土が全て褐色土ブロックと黒褐色土或いは黒色土との混合土であり、人為的な埋め戻しを受けたものであることは間違いない。したがって、土坑自体も比較的新しい時代のものではないかと考えられる。開口部が隅丸の台形や長方形のものが多く、配置から見ても、一定の方向性をもって掘っていたことが分かる。また、底面や壁面には現代の重機の使用時に見られるような直角な角の有る掘削痕などがないことから、手掘りであった可能性が高い。なお、これらの土坑が掘られた目的については、断定する材料に乏しいが、埋土の全ての層が混合土であるという共通点から、次のような推測に留める。

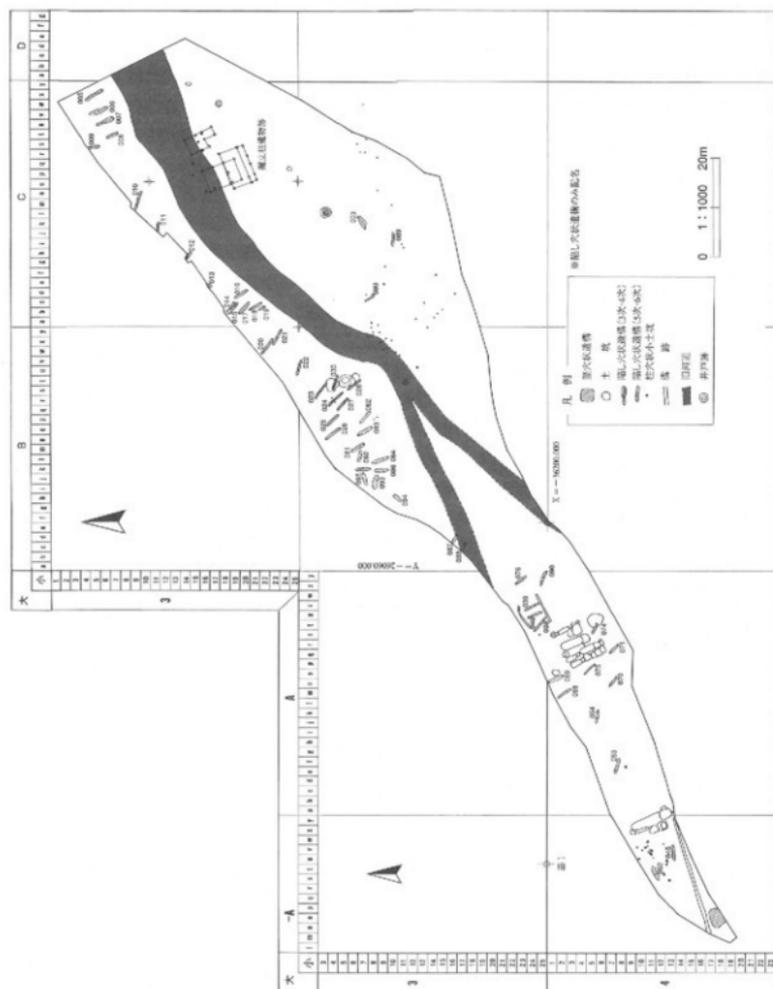
まず、全ての埋土が混じりあった混合土であることから、これらの土坑が人為的に、かつ、掘削の直後に埋め戻してあることは十分に考えられる。おそらくは土坑の直上及び周辺にある黒色・黒褐色の表土を主体としたものであると考えられる。目的が単に表土下の褐色土を採集することであったとも考えにくく、農村地帯によく見られる冬季の野菜保管用の土坑(窠)であった可能性も考えられる。また、掘削の時期は、埋土に含まれる磁器類の破片から見て19世紀以降であると考えられる。

### 2 遺物について

遺物は、陥し穴状遺構以外の土坑群の埋土から土器破片及び陶磁器破片がわずかず出土しただけである。おそらく、土坑掘削後の人為的な埋め戻しの際に、表土に含まれていた遺物が混入していったものと考えられる。

### 3 矢盛遺跡の全体像について

本次調査と並行して実施した第5次調査及び前年度実施の第3次・4次調査の結果を総合すると、それぞれの報告でも述べられているが、矢盛遺跡一帯は、縄文時代の猟場であったことは明らかである。これに、さらに、東北東の細谷地遺跡や飯岡才川遺跡の一部、向中野館遺跡までを加えると第22図のような遺構配置となる。一見して、細谷地遺跡の西側を通る旧河道が矢盛遺跡につながる可能性が高く、さらに、その西岸沿いに縄文中期以降のものでとされる陥し穴状遺構が多く配置されていることも分かる。また、この図からは落ちたが、矢盛遺跡の北200m程に飯岡才川第2次調査区があり、確認された3基の陥し穴状遺構の長軸は、いずれも本調査区の旧河道に対してほぼ直角な向きをとっている。これらの陥し穴状遺構群を設けた縄文人が長く一定の土地に住み続けていたとは限らないが、

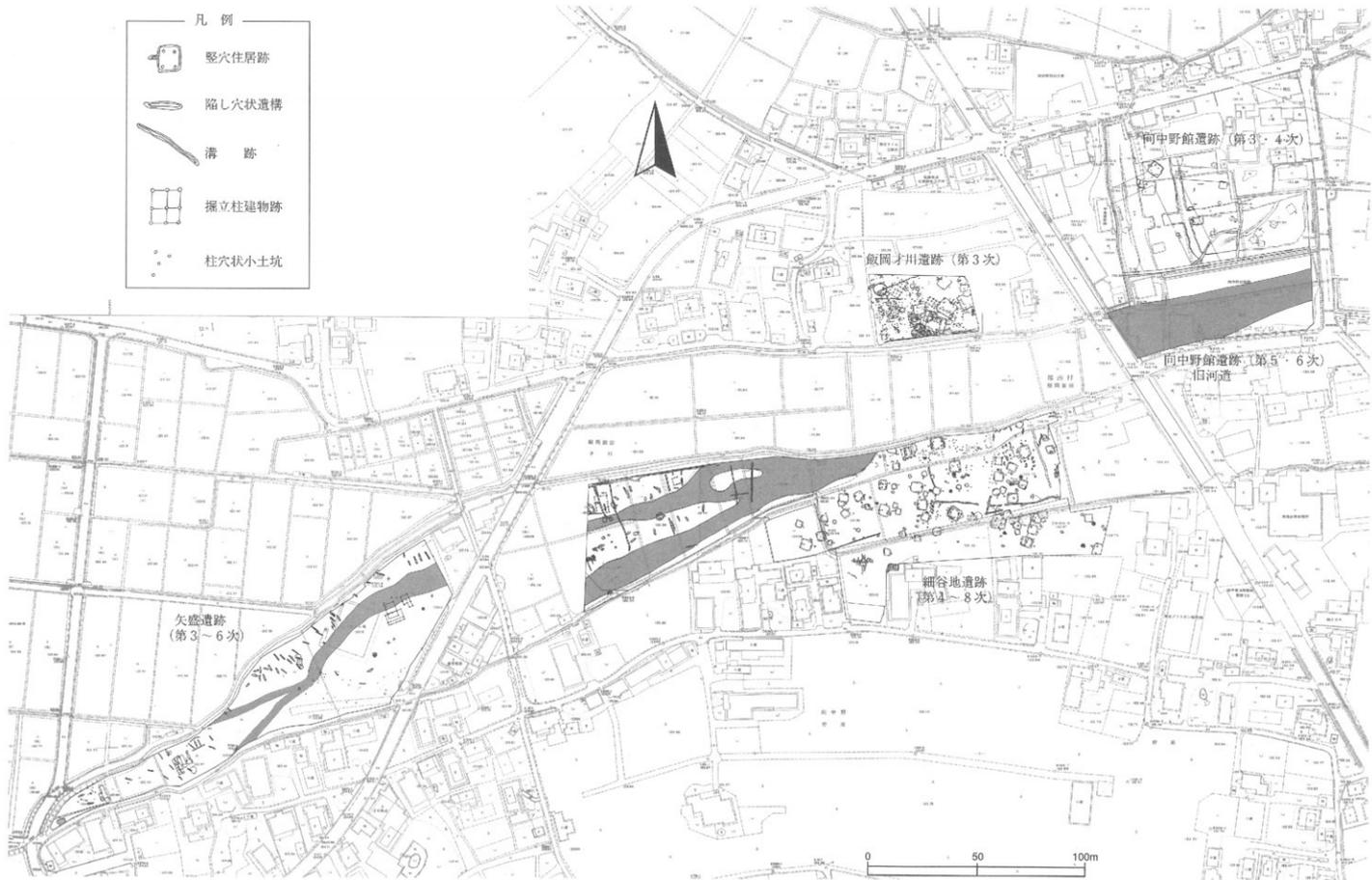


第21図 第3～6次調査遺構配置図

この周辺のどこかにすんでいたはずである。現在分かっている縄文時代の集落としては、近くは北東に約1kmの台太郎遺跡、遠くは西に5km前後の上平遺跡・上平Ⅱ遺跡・猪去館遺跡・上猪去館遺跡などがあるが、もっと近くにも該当する時期の縄文集落跡が地下にひっそりと眠っている可能性もあり、今後の発掘調査の進展が期待される。

## 引用・参考文献

- 中川久夫ほか 1963 「北上川上流沿岸の第四系および地形」 『地質学雑誌』69
- 坂本真弓・杉野森淳子 1997 「青森近県における陥し穴集積」 『研究紀要』第2号 青森県埋蔵文化財調査センター  
(財)岩手県埋蔵文化財センター
- 藤川司男 1981 「陥し穴状遺構について」 『紀要Ⅰ』  
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 1994 『矢倉遺跡第1次発掘調査報告書』
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第205集(以下、岩手埋文報告書第 集と略す)
- 1996 『小幡遺跡第2次発掘調査報告書』(岩手埋文報告書第244集)
- 1996 『小幡遺跡第4次発掘調査報告書』(岩手埋文報告書第265集)
- 1998 『大宮北・本宮熊堂A遺跡発掘調査報告書』(岩手埋文報告書第281集)
- 1999 『本宮熊堂B遺跡第4次・鬼柳A遺跡第4次発掘調査報告書』(岩手埋文報告書第308集)
- 2002 『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報告(平成13年度)』(岩手埋文報告書第311集)
- 2000 『向中野館遺跡第4次・小幡遺跡第11次・台太郎遺跡第19次発掘調査報告書』(岩手埋文報告書第321集)
- 2001 『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報告(平成12年度)』(岩手埋文報告書第370集)
- 2002 『熊堂B遺跡第10次発掘調査報告書』(岩手埋文報告書第377集)
- 2002 『飯岡才川遺跡第3次発掘調査報告書』(岩手埋文報告書第393集)
- 2003 『細谷地遺跡第4次・第5次発掘調査報告書』(岩手埋文報告書第414集)
- 2003 『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報告(平成14年度)』(岩手埋文報告書第423集)
- 2003 『飯岡林崎Ⅱ遺跡第1次・第3次発掘調査報告書』(岩手埋文報告書第427集)
- 2003 『矢倉遺跡第3次・熊堂B遺跡第14次発掘調査報告書』(岩手埋文報告書第451集)
- 2004 『熊堂A遺跡第17次発掘調査報告書』(岩手埋文報告書第453集)
- 2004 『細谷地遺跡第8次発掘調査報告書』(岩手埋文報告書第454集)
- 盛岡市教育委員会
- 1979 『太田方八丁遺跡 昭和53年度発掘調査概報』
- 1981 『志波城跡。—太田方八丁遺跡範囲確認調査報告—』



第22図 矢盛遺跡及び近隣の遺跡の遺構分布

写 真 图 版





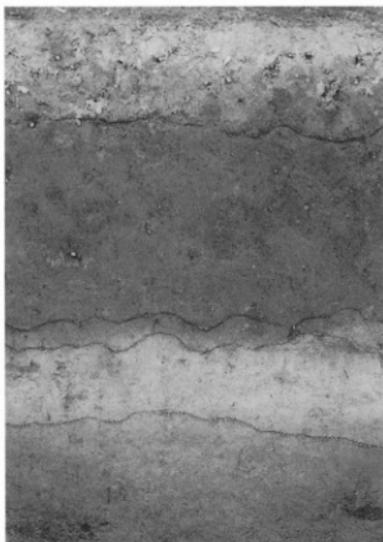
調査前風景（調査区西側）北→



調査前風景（調査区東側）東→



東側調査区南壁土層（土層①：北から）



西側調査区南壁土層（土層②：北から）



西側調査区南壁土層（土層④：北から）



西側調査区北壁土層（土層③：南から）



南側旧河道と断面 北→



旧河道（北側と南側）北東→



北側 旧河道 東→

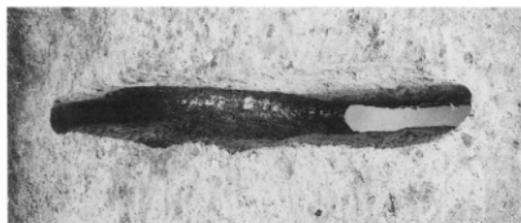


旧河道の北西に分布する陥し穴状遺構 北→  
(RD081～094付近、井戸跡など)

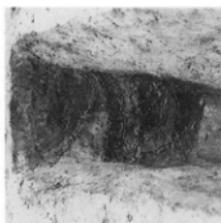


北側旧河道断面 南→

写真図版3 旧河道・陥し穴状遺構



RD068



断面



RD054



断面



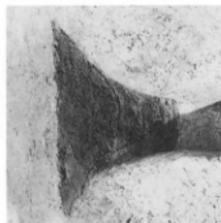
RD053



断面



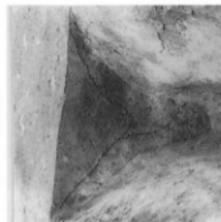
RD052



断面

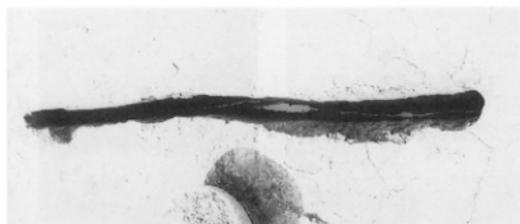


RD045

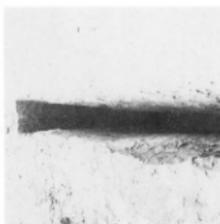


断面

写真図版4 陥し穴状遺構(1)



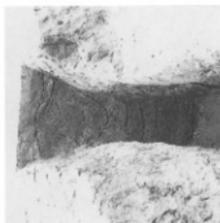
RD075



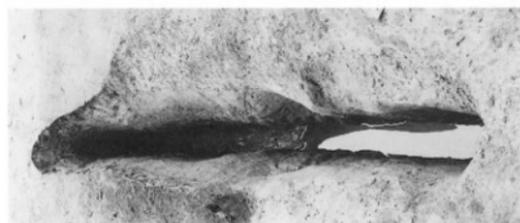
断面



RD074



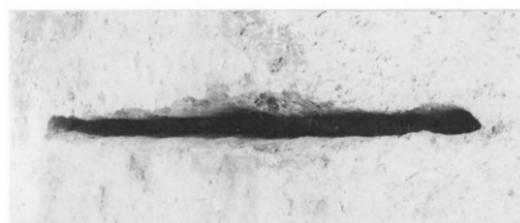
断面



RD071



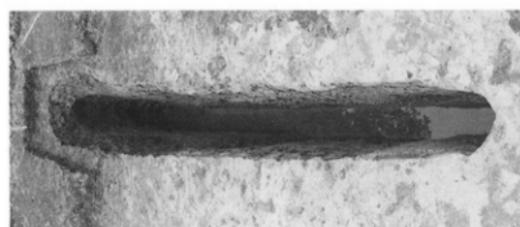
断面



RD070



断面

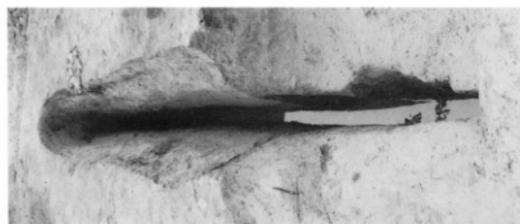


RD069

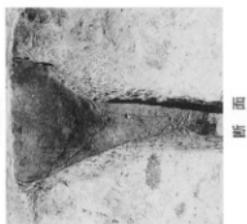


断面

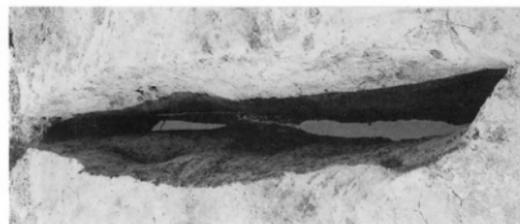
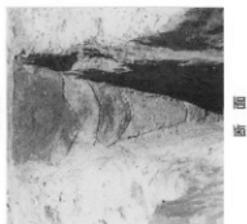
写真図版5 隔し穴状遺構(2)



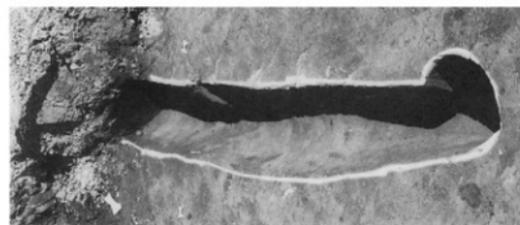
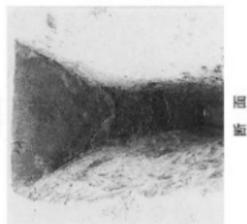
RD083



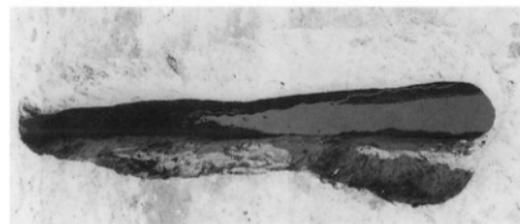
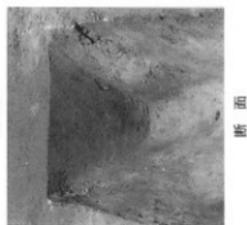
RD082



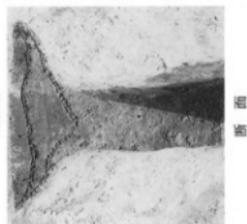
RD081



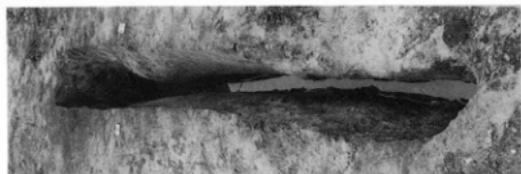
RD080



RD076



写真図版6 陥し穴状遺構 (3)



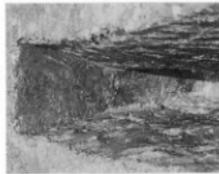
RD089



断面



RD088



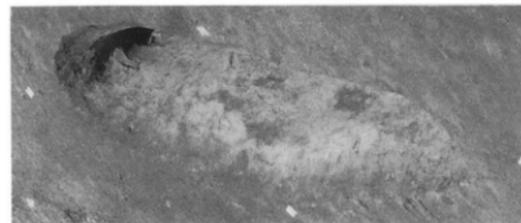
断面



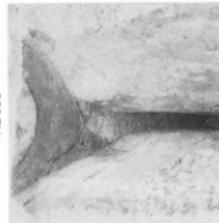
RD087



断面



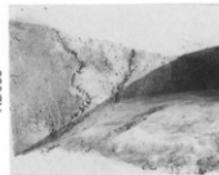
RD086



断面



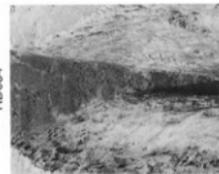
RD085



断面



RD084



断面

写真図版7 陥し穴状遺構(4)



RD095



断面



RD094



断面



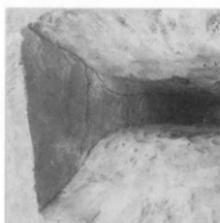
RD093



断面



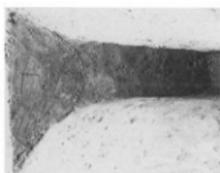
RD092



断面

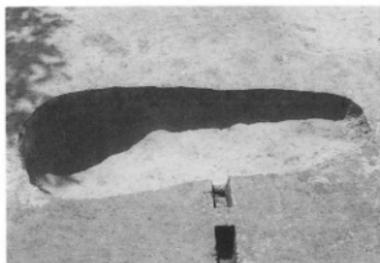


RD090



断面

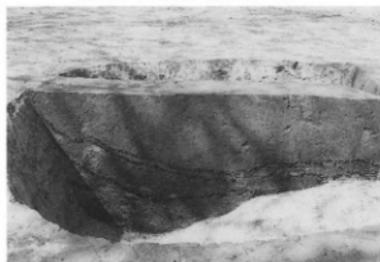
写真図版 8 陥し穴状遺構 (5)



RD047・046・041 (左から) 東→



RD046・041断面 C-C'



RD047・046断面 A-A' 南半



RD046・041断面 A-A' 北半



RD077・073 (左から) 南→



RD077断面 G-G' 南端



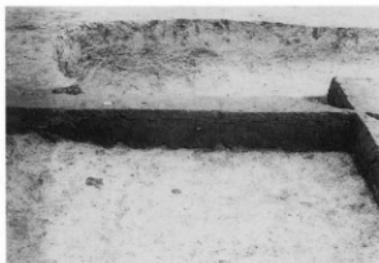
RD073・077断面 J-J'



RD078・079・091 (手前から) 南→



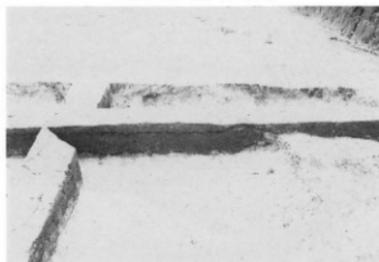
RD078·079断面 I-I' H-H'



RD078断面 G-G' 南侧



RD078断面 G-G' 中央



RD078断面 G-G' 北端



RD033 南→



RD033断面



RD037 西→



RD037断面



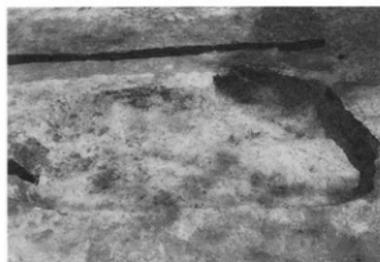
RD034・035・042 南→



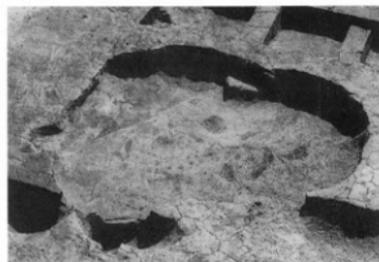
RD037断面 K-K'



RD034・035断面 AC-AC'



RD051・050 西→



RD048・049 東→



RD051・050断面 P-P'



RD048・049断面 AD-AD' 北半



RD048・049断面 AD-AD' 南半



RD063・062・061 (左から) 西→



RD061断面 M-M' 南端



RD062断面 N-N'



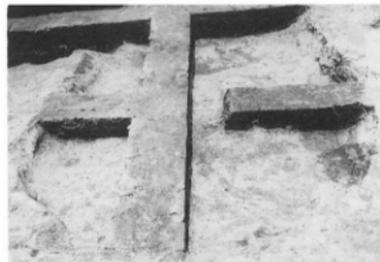
RD063断面 M-M' 北端



RD062断面 M-M' 中央



RD055・056・057 西→



RD057断面 X-X'



RD057・055断面 U-U' 南半



RD055断面 U-U' 北半



RD062・061・051・050・060・059・058 西→



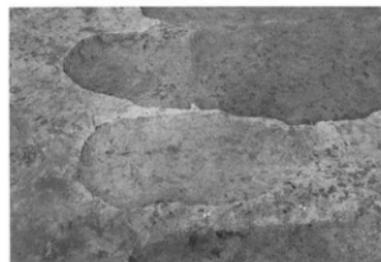
RD056・055断面 V-V' W-W'



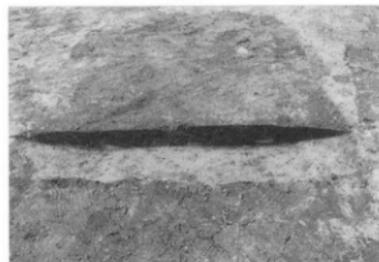
RD060断面 O-O' 北半



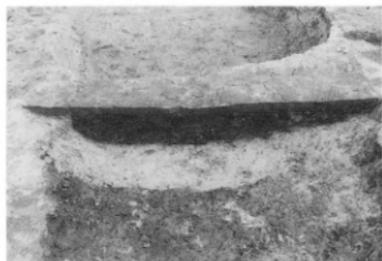
RD059・058断面 O-O' 南半



RD064・065・066 西→



RD064断面 Q-Q'



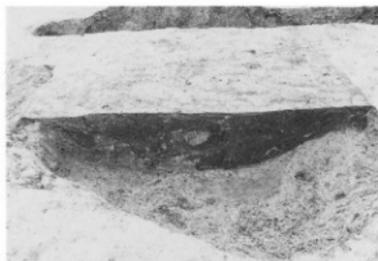
RD065・066断面 S-S'



作業風景



RD072平面 北→



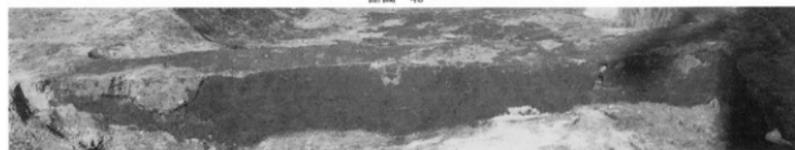
RD072断面 東→



RE001竪穴状遺構 平面 北→



断面 北→



断面 西→



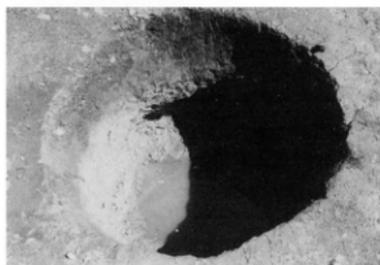
RG007溝跡 西→



RG007断面 C-C'



RG007断面 D-D'



RI004井戸跡 南→



柱穴状土坑 4A11u付近 東→



RI004断面



柱穴状土坑 3B8x付近 南→



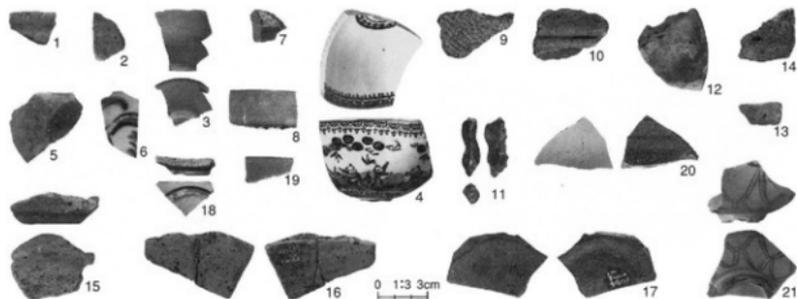
柱穴状土坑 3C15b付近 南西→



柱穴状土坑 3C8r付近 北→



冠水時の調査区



写真図版16 柱穴状小土坑(2)、出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	やもりいせきだいろくじはくつちょうさほうこくしょ							
書名	矢盛遺跡第6次発掘調査報告書							
副書名	盛岡南新都市区画整理事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第488集							
編著者名	早坂 淳							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2005年12月20日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面	調査原
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ° ° °	° ° ° °			
矢盛遺跡 (第6次調査)	岩手県盛岡市飯岡新田第2地割151はか	03201	LE26-0139	39度 40分 35秒	141度 08分 01秒	2004.04.12 ～ 2002.06.04	3,288㎡	盛岡南新都市区画整理事業に伴う緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
矢盛遺跡	散布地	縄文時代  占代  近代  時期不明	陥し穴状遺構26基   土坑 31基 堅穴状遺構 1基 溝跡 1条 井戸跡 1基		縄文土器片 4点  土師器片 14点 須恵器 1点  陶磁器片 12点  石器 1点		旧河道に沿って陥し穴状遺構が点在する縄文時代の狩猟場である。 本次調査区の北東側には第4次調査区、中央西側に本次調査区に挟まれるように第5次調査区が隣接する。	

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第488集  
**矢盛遺跡第6次発掘調査報告書**  
盛岡南新都市区画整理事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成17年12月16日

発行 平成17年12月20日

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地  
電 話 (019) 638-9001  
F A X (019) 638-8563

印刷 (株)五六堂印刷  
〒020-0021 岩手県盛岡市中央通3-16-15  
電 話 (019) 654-5610  
F A X (019) 651-2167

